YAMAHA

225F
250B

船外機取扱説明書

058201

65J-28199-00

JMU25050

よくお読みになってからご使用ください。

JMU25100

お客様へ

ヤマハ船外機をお買い上げ戴きまことにありがとうございます。
この取扱説明書は、船外機の正しい取り扱い方法と簡単な点検、整備について説明してあります。
万一、取り扱いを誤ると重大な事故や故障等の原因となります。
船外機の取り扱いを十分ご存知の方も製品独自の装備や取り扱いがありますので、ご使用される前には本書を必ずお読みいただき、またご使用時には携帯し安全快適なマリンライフをお楽しみください。
本書では正しい取り扱い、および点検整備に関する必要な事項を下記のシンボルマークで表示しています。

⚠ 安全に係わる注意情報を意味しています。

JWM00780

⚠警　告

取り扱いを誤った場合、死亡または重傷に至る可能性が想定される場合を示してあります。

JCM00700

⚠注　意

取り扱いを誤った場合、傷害に至る可能性または物的損害の発生が想定される場合を示してあります。

要　点

正しい操作の仕方や点検整備上のポイントを示してあります。

- 仕様の変更などにより、図や内容が一部実機と異なる場合がありますのでご了承ください。
- 本書は大切に保管し、船外機本体を転売や譲渡等される場合は必ず添付してください。
- 整備手帳には保証書とともに定期点検整備の方式、および定期点検記録簿が入っております。あなたの船外機の健康管理にご活用ください。
- 保証書はよくお読みいただき裏面の取扱店名、捺印をご確認のうえ、大切に保存してください。

ご不明な点や不具合なところがありましたら、お早めにお買い上げのヤマハ取扱店にご相談、またはお申しつけください。
ヤマハ取扱店では、お客様の良きアドバイザーとしてご来店をお待ち申し上げております。

要　点

本書では内容や図は 225FETO, 250BETO を基本に標準的な装備品を想定して説明しております。モデルや仕様によっては適合しない項目もあります。

目次

お使いいただく前に..... 1
製造番号の記録 1
船外機製造番号..... 1
キーナンバ 1
安全にご使用するにあたって..... 1
重要ラベル貼付場所 2
警告ラベル 2
注意ラベル 3
燃料とオイル 3
ガソリン 4
エンジンオイル（2 サイクル用）..... 4
ギヤオイル 4
推奨バッテリ 4
推奨バッテリ 4
プロペラ..... 5
始動安全装置 5
各部の名称と機能..... 6
主な構成部品 6
リモートコントロール..... 6
リモコンレバー..... 7
ニュートラルインタロック 7
ニュートラルスロットルレバー 7
スロットルフリクション
アジャスタ 8
緊急エンジン停止スイッチ 8
エンジンスイッチ..... 8
PTT スイッチ（ティラハンドル
仕様／リモートコントロール
仕様）..... 9
PTT スイッチ（ボトムカウル用）.... 9
トリムタブ（アノード付仕様）..... 9
チルトサポートレバー
（パワートリムアンドチルト／
ハイドロチルト仕様）..... 10
トップカウル取り外しレバー 10
水洗装置 11
タコメータ（エンジン回転計）..... 11
デジタルタコメータ..... 11
オイル残量警告灯..... 12
オイル残量表示（デジタル）..... 12
オーバヒート警告表示..... 12
デジタルスピードメータ 13
トリムメータ 13
トリムメータ（デジタル）..... 13
アワーメータ（デジタル）..... 14
トリップメータ 14
時計..... 14
燃料計 15
燃料警告灯..... 15
バッテリ電圧警告灯 15
警告装置..... 16
オーバヒート警告 16
オイル残量 / オイルフィルタ
詰まり警告..... 17
運転と操作..... 19
船外機の取り付け 19
ボートトランサムへの取り付け 19
慣らし運転..... 20
慣らし運転の手順（オイル
インジェクション仕様）.....20
慣らし運転中の混合比（50:1）.....21
出港前の点検..... 21
燃料..... 21
オイル..... 21
作動系..... 21
エンジン本体 21
長期保管後の運転 21
燃料とオイルの給油 22
燃料タンクへの給油 22
オイルの補給（分離給油仕様 ）.....22
オイル残量表示 24
エンジン操作..... 24
燃料供給..... 24
エンジン始動 25
暖機運転..... 26
電動始動／プライムスタート
仕様..... 26
前進／後進..... 27
前進（ティラーハンドル仕様／
リモートコントロール仕様）..... 27
後進..... 27
エンジン停止..... 27
エンジン停止ボタン／
エンジンスイッチ仕様 27
船外機トリム角度 28
トリム角度の調整（パワートリム
アンドチルト仕様）..... 28
トリム角度の設定とボートの
取り扱い..... 29
チルトアップ／ダウン 30

目次

チルトアップ（パワートリム アンドチルト仕様／ パワーチルト仕様）..... 30
チルトダウン（パワートリム アンドチルト仕様／ パワーチルト仕様）..... 31
浅瀬航走..... 32
パワートリムアンドチルト仕様／ パワーチルト仕様 32
他の航走状況 32
点検と整備.....34
仕様諸元..... 34
運搬と保管..... 34
長期保管 35
保管手順 35
バッテリの取り扱い..... 36
エンジン内部冷却経路の洗浄 37
船外機の清掃 38
船外機外装の点検..... 38
定期点検..... 38
定期点検表 39
グリス給脂箇所..... 41
スパークプラグの点検..... 42
燃料系統の点検..... 42
燃料フィルタの点検..... 43
エンジン本体燃料フィルタの 清掃 43
アイドリングスピード（無負荷最低速回転）の点検..... 44
オイルタンク内水溜まりの点検 44
配線と各接続部の点検..... 45
排気ガス洩れの点検..... 45
冷却水洩れの点検..... 45
パワートリムアンド チルトユニットの点検..... 45
プロペラの点検..... 46
プロペラの取り外し..... 47
プロペラの取り付け..... 47
ギヤオイルの交換..... 48
アノードの点検..... 49
バッテリの点検（電動始動仕様）... 49
バッテリの取り付け..... 50
バッテリの取り外し..... 51
トップカウルの点検..... 51
船底の清掃 51
付属工具と部品 52
不具合時の対応.....53
故障と対策..... 53
応急処置..... 56
衝撃を受けた場合 56
ヒューズの交換 56
パワートリムアンドチルト又は、 パワーチルトが作動しない場合...57
スタータモータが動かない場合 57
応急始動.....58
エンジンが正しく作動しない 場合 58
応急処置方法 58
オイル残量警告が作動した場合 59
トップカウル取り外しレバーを 使ってロックが解除できない 場合 60
船外機を水中に落とした場合..... 60
処置手順.....60
ご相談窓口.....62
お客様ご相談窓口のご案内..... 62

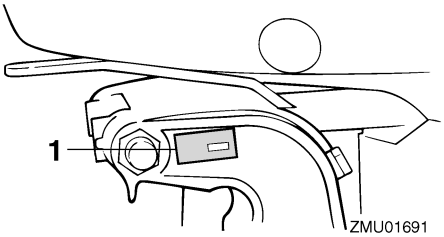
JMU25170

製造番号の記録

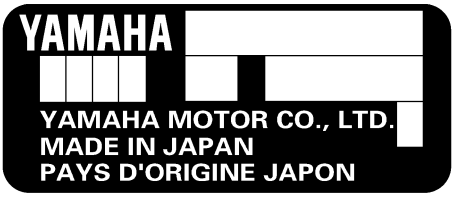
JMU25182

船外機製造番号

製造番号は、クランプブラケットの左舷側（2 馬力はスイベルブラケットの上側）に貼ってあります。
ヤマハ取扱店への部品注文の際や盗難にあったときのために、空欄に番号を控えておくと便利です。



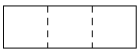
1. 船外機製造番号貼付場所

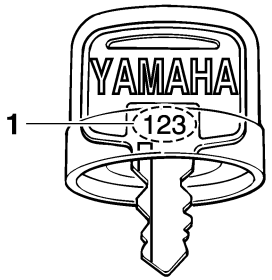


JMU25190

キーナンバ

エンジンスイッチのキーにはイラストで示しているようにキーナンバが刻印されています。新しいキーが必要になった場合に備えて、空欄にキーナンバを控えておいてください。





1. キーナンバ

JMU25370

⚠ 安全にご使用するにあたって

あなた自身と同乗者の安全のために

- この取扱説明書をよく読んでからお使いください。
- 船体の取扱説明書、および全ての注意書きやラベルをよく読んでから運転を行なってください。
- 船体の最大搭載馬力を越える船外機の取り付けは危険ですから絶対に行なわないでください。
- 改造は絶対に行なわないでください。
- 飲酒運転は絶対に行なわないでください。
- 救命胴衣は必ず船内に搭載し、船舶検査機関承認のものをご使用ください。
- ガソリンは高い引火性や爆発性がありますので、取り扱いには十分注意を払ってください。特に、エンジン始動時にはガソリンの洩れがないことを確認してください。
- 排気ガスは一酸化炭素を含み中毒をおこす恐れがあります。ボートハウスなどの閉め切った場所ではエンジンを始動させないでください。
- エンジン始動前にはスロットル、シフト、ステアリングの作動確認を行なってください。
- 運転中は緊急エンジン停止スイッチの装備されているものは、カールコードを手、

足や衣服の丈夫な場所に取り付けてください。
- 天気予報等を確認してから出港してください。
- 運航予定を関係者（マリーナや家族等）に届けてから出港してください。また、帰港時には必ず帰港の連絡を関係者にしてください。
- 操船中は常識とすみやかで適正な判断が要求されます。そのためには、海況の変化に応じた操船技量を把握しておかなければなりません。操船は必ず操船者の技量やボート本体の航行能力の範囲内で行なってください。
- 海事関係の各所や団体等から出版されている船舶関連の安全教本等も合わせて読んでおいてください。

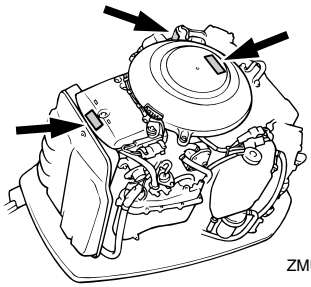
他の船舶や遊泳者の安全のために
- 海上の交通法規や地域規定（条例等）、およびマナーを守った操船を行なってください。
- 遊泳者等には十分注意を払ってください。付近に遊泳者がいるときはエンジンを停止してください。
- 航走は常に周辺の障害物や船舶等に十分注意を払い、安全なスピードで行なってください。
- 海水浴場等への乗り入れは行なわないでください。

JMU25380

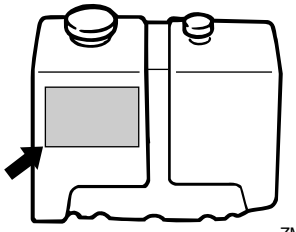
重要ラベル貼付場所

JMU25395

警告ラベル



ZMU05055



ZMU01948

JMU25401

ラベル

JWM01260

⚠警　告

安全にご使用いただくために、次の事項をお守りください。
- **ご使用前に“取扱説明書”、“ラベル”を良く読んでください。**
- **始動時はシフトを中立にしてください。（シフト付機種）**
- **運転中は電装品には触らないでください。**
- **運転中は手や髪、服などが回転体に触れない様十分注意してください。**

JMU25451

ラベル

エンジンオイル
- このタンクには、指定オイルを給油してく

ださい。
指定オイル：
ヤマハ船外機オイル

JWM01270

⚠警　告

オイルタンクの中には、ガソリンを入れないでください。火災や爆発の原因になります。

JMU30471

ラベル

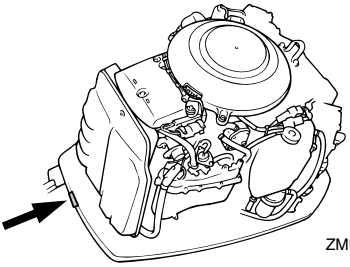
JWM01411

⚠警　告

運転中または運転直後は素手でカバー下の部品に触れないでください。高温のため火傷をする恐れがあります。

JMU25464

注意ラベル



ZMU04207

JMU25491

ラベル

JCM01300

⚠注　意

無鉛ガソリンをご使用ください。
鉛等の添加物を含むガソリンの使用は性能低下や本体損傷を招く恐れがあります。詳しくは取扱説明書をご覧ください。

JMU25540

燃料とオイル

JWM00010

⚠警　告

- ガソリンは高い引火性と爆発性があります。
- 給油中は、タバコ等の火気や他の火種になるようなものを近づけないでください。
- 給油は、エンジンを停止してから行なってください。
- 給油は、換気の良い場所で行なってください。専用燃料タンクの場合は、ボートから降ろして行なってください。
- こぼさないように、取り扱いには十分に注意を払って行なってください。こぼれた時には、ただちに拭き取ってください。
- 燃料タンクには、規定容量以上給油しないでください。
- 燃料タンクキャップは、確実に締めてください。
- 飲み込んだり、目に入ったり、または多量の揮発蒸気を吸い込んだ場合は、ただちに医師の診断を受けてください。
- 皮膚に付着した場合は、ただちに石鹸等を使って洗い流してください。衣類に付着した場合は、着替え等を行なってください。

JCM00010

⚠注　意

水や不純物の混ざっていない、きれいな容器に入った、新しいガソリンを使ってください。

JMU25570

ガソリン

推奨ガソリン；
無鉛レギュラーガソリン

JMU30620

エンジンオイル（2サイクル用）

推奨エンジンオイル；
ヤマハ船外機スーパースペシャルオイル（ヤマハ船外機 SS オイル）



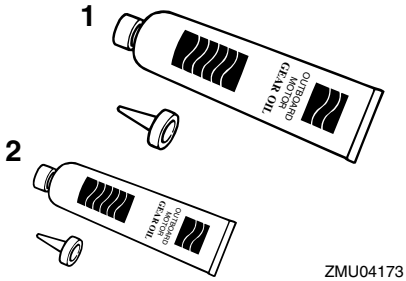
ZMU04512

1. 部品番号　90890-6382H (0.4L)
2. 部品番号　90890-6382E (1L)
3. 部品番号　90890-6382G (4L)

JMU30100

ギヤオイル

推奨ギヤオイル；
ヤマハ船外機ギヤオイル、またはハイポイドギヤオイル (SAE90)



ZMU04173

1. 部品番号　90790-73603 (750ml)
2. 部品番号　90790-73602 (350ml)

JMU25700

推奨バッテリ

JCM01060

⚠注　意

規定の容量に合わないバッテリは、使用しないでください。規定容量外のバッテリを使用すると、電装系に供給電流が不足したり、過大な負荷が掛かったりして故障の原因になります。

この船外機（電動始動仕様）には、次の規格に適合するバッテリをご使用ください。

JMU25711

推奨バッテリ

JIS 規格：
95E41–115F51

要　点

船外機バッテリの電圧が低下した場合は、エンジンの始動ができなくなることがあります。

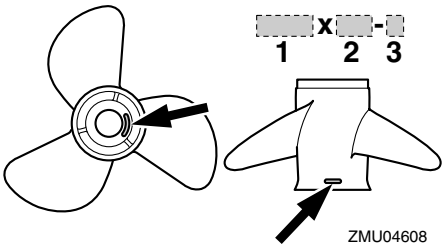
JMU25741

プロペラ

船外機の航走性能は、プロペラの選び方によって大きく影響を受けます。不適切なプロペラは性能が引き出せないばかりではなく、重大な故障の原因にもなりかねません。エンジンの回転数はプロペラサイズやボートの状態によって変わってきます。全開エンジン回転数が規定範囲より高すぎたり低すぎたりした場合は、エンジンに悪影響をおよぼします。

指定された全開エンジン回転範囲に合わないプロペラが付いている場合は、ピッチの異なるプロペラを使って合わせます。重負荷には、よりピッチの小さなプロペラを使って全開エンジン回転範囲に合わせます。逆にピッチの大きなプロペラは、軽負荷用となります。

ボートの使用状態に最も適合するプロペラの選定は、ヤマハ取扱店にご相談して決めてください。



1. プロペラ直径（インチ）
2. プロペラピッチ（インチ）
3. プロペラの種類（プロペラマーク）

要　点

ボートが満載状態でスロットルを全開にした時に、エンジン回転数が仕様諸元で指定した全速回転範囲の中間値、またはそれ以上となるプロペラを選んでください。ボートが軽荷状態になったときには、指定回転範囲を越えないように、スロットル開度を調整してください。

プロペラの取り付け、および取り外しに関しては、46 ページを参照ください。

JMU25770

始動安全装置

ヤマハ船外機または専用リモートコントロール装置には、ギヤが前進または後進に入っているときはエンジンの始動ができないように、安全装置が装備されています。エンジンを始動する際は、シフトを必ず中立（ニュートラル）にしてから行なってください。

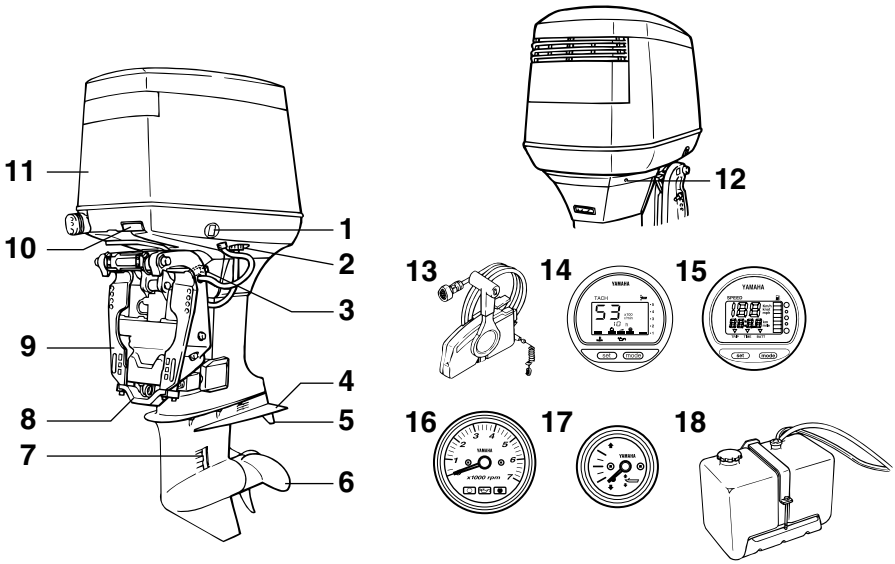
JMU25795

主な構成部品

要　点

燃料タンク、リモコン関連、メータ類、およびプロペラ等の備品はオプションとなっている場合があります。
詳しくは、ヤマハ取扱店へお問い合わせください。
(*) 仕様により異なります。

225F, 250B



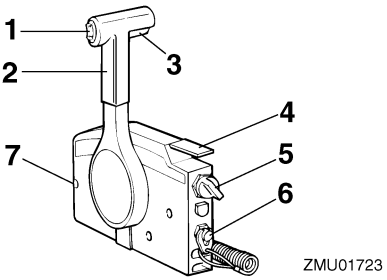
ZMU05056

1. PTT スイッチ
2. 水洗装置
3. チルトサポートレバー
4. キャビテーションプレート
5. トリムタブ（アノード）
6. プロペラ *
7. 冷却水取入口
8. アノード
9. クランプブラケット
10. トップカウル取り外しレバー
11. トップカウル
12. パイロットホール
13. リモートコントロールボックス（サイドマウントタイプ）*
14. デジタルタコメータ *
15. デジタルスピードメータ *
16. タコメータ *
17. トリムメータ *
18. サブオイルタンク *

JMU26180

リモートコントロール

シフト、スロットル、および電動の遠隔操作等が行なえます。

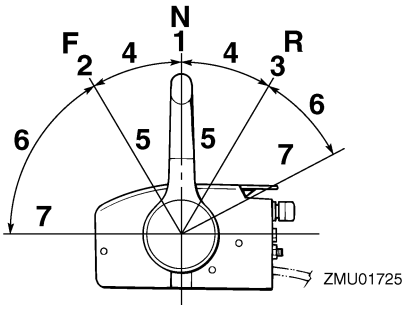


1. PTT スイッチ
2. リモコンレバー
3. ニュートラルインタロック
4. ニュートラルスロットルレバー
5. エンジンスイッチ／チョークスイッチ
6. 緊急エンジン停止スイッチ
7. スロットルフリクションアジャスタ

JMU26190

リモコンレバー

レバーを中立（ニュートラル）から約 35°（軽く止まる位置）船首側へ倒せば前進に、船尾側へ倒せば後進にギヤが入り最低速回転で航走をはじめます。更に、そこからレバーを倒していくと加速をはじめます。

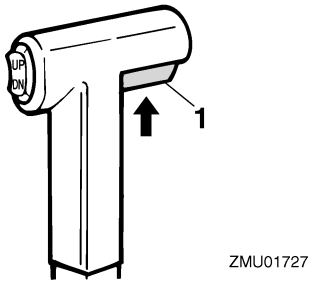


1. ニュートラル　“**N**”
2. 前進　“**F**”
3. 後進　“**R**”
4. シフト域
5. 全閉
6. スロットル域
7. 全開

JMU26201

ニュートラルインタロック

リモコンレバーを中立（ニュートラル）の位置で保持します。前進や後進へシフトする際は、最初に赤色ノブを引き上げてからリモコンレバーを動かします。



1. ニュートラルインタロック

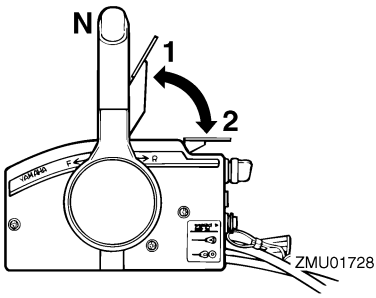
JMU26211

ニュートラルスロットルレバー

中立（ニュートラル）の状態で、スロットルの開閉操作がおこなえます。

要　点

ニュートラルスロットルレバーは、リモコンレバーが中立（ニュートラル）の位置でなければ操作できません。また、リモコンレバーはニュートラルスロットルレバーが全閉の状態でなければ操作できません。



1. 全開
2. 全閉

JMU25970

スロットルフリクションアジャスタ

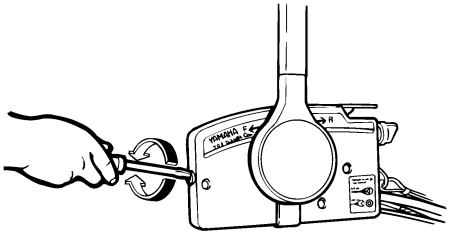
スロットルコントロールグリップの動きの重さを調整するノブ／スクリュがティラハンドル／リモートコントロールボックスに装備されています。操船者の好みに合わせて、調整ができます。

重さ（抵抗）を増やすには、時計方向に回します。減らすには、反時計方向に回します。

JWM00030

⚠警　告

- **調整スクリュ、または調整ノブを、締めすぎないようにしてください。**
- **スロットルコントロールレバー、またはスロットルコントロールグリップの動きが重すぎると、操船に支障をきたし事故につながる恐れがあります。**



ZMU01714

JMU25990

緊急エンジン停止スイッチ

航走中に操船者が落水等で操船不能に陥ったとき、カールコードが伸びてロックプレートが外れ、エンジンを急停止させ船の暴走を防ぐ仕組みになっています。カールコードは確実に操船者の衣服または手、足に取り付けてください。

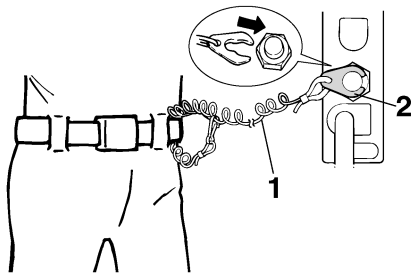
JWM00120

⚠警　告

- **操船中はカールコードを衣服の丈夫な場所や手、足に確実に付けてください。**
- **衣服の緩みそうな場所にはカールコードを付けないでください。また、操船に支障をきたすような場所への取り付けは行なわないでください。**
- **航走中はカールコードが身体や周辺の機器等に引っ掛かり不意にロックプレートが外れないようにしてください。操船に支障をきたすばかりでなく、ロックプレートが外れることにより急減速され同乗者や荷物等が前方へ投げ出される恐れがあります。**

要　点

ロックプレートが外れた状態ではエンジンの始動はできません。



ZMU01716

1. カールコード
2. ロックプレート

JMU26090

エンジンスイッチ

エンジンの始動、停止の操作は、エンジンスイッチで行ないます。作動は次のようになっています。

- **“OFF”**

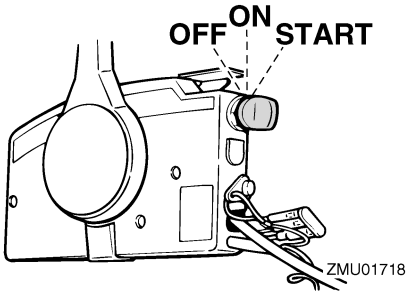
電気回路が遮断されエンジンが停止します。（キーを抜ける状態です。）

- **“ON”**

電気回路が短絡されアクセサリ等が使用できます。（キーは抜けません。）

- **“START”**

スタータモータが回ってエンジンが始動します。（キーを離すと自動的に“ON”の位置に戻ります。）



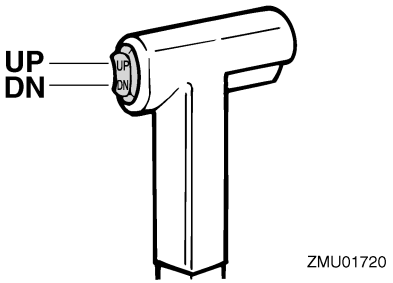
JMU26141

PTT スイッチ（ティラハンドル仕様／リモートコントロール仕様）

船外機のトリム / チルト角度が調整できます。“**UP**”側のスイッチを押している間は、トリム域からチルト域へと角度が上がっていきます。“**DN**”側のスイッチを押している間は、チルト域からトリム域へと角度が下がっていきます。スイッチから手を離すと、その角度を保持して止まります。

要　点

PTT スイッチの使用に関しては 28 ページおよび 30 ページを参照ください。



JMU26151

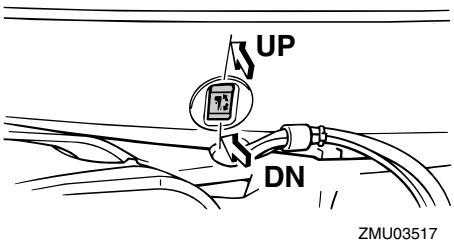
PTT スイッチ（ボトムカウル用）

ボトムカウルに装備されています。ボートトランサムからの船外機角度の調整ができます。“**UP**”のスイッチを押している間は、トリム域からチルト域へと角度が上がっていきます。“**DN**”のスイッチを押している間は、チルト域からトリム域へと角度が下がっていきます。スイッチから手を離すと、その角度を保持して止まります。

JWM01030

⚠警　告

このスイッチは停船時に使用してください。操船中の使用は落水や、周辺への注意がおろそかになり事故につながる恐れがあります。



要　点

PTT スイッチの使用に関しては 30 ページを参照ください。

JMU26241

トリムタブ（アノード付仕様）

航走中にステアリングが左、または右にとられる場合に、その調整をするためのものです。

JWM00840

⚠警　告

トリムタブの調整が悪いと操船に支障をきたします。トリムタブを交換した場合等は、試走してステアリングの状態を確認してください。トリムタブの調整等をおこなった後は、ボルトを確実に締めてください。

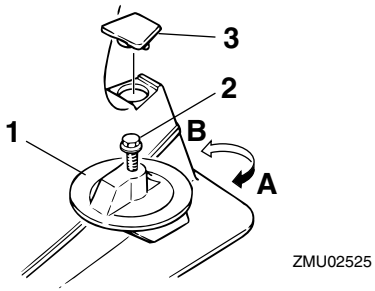
ステアリングが左舷側に取られる場合、トリムタブフィンを左舷側へ回す“A”。右舷側に取られる場合、右舷側へ回す“B”。

JCM00840

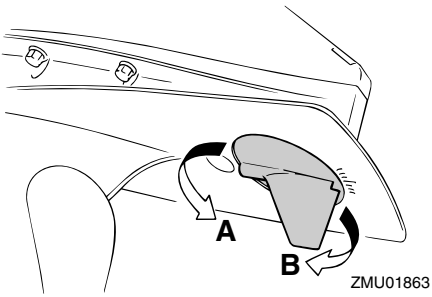
⚠注　意

トリムタブは電食からエンジンを保護するために、アノードの役目を兼ねています。決してペンキ等を塗らないようにしてくださ

い。



1. トリムタブ
2. ボルト
3. キャップ



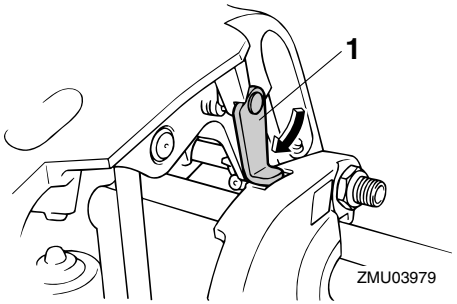
要　点

トリムタブは、使用頻度の多い航走スピードに合わせて調整してください。航走スピードやトリム角度が変われば、トリムタブの効果も変化します。

JMU26340

チルトサポートレバー（パワートリムアンドチルト／ハイドロチルト仕様）

船外機をいっぱいにチルトアップした状態を保つときに、レバーを降ろして保持します。

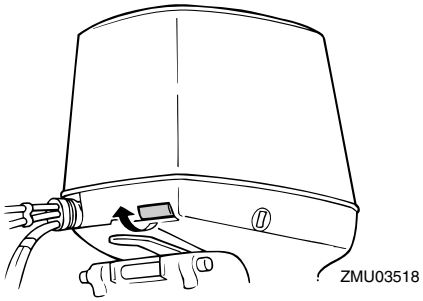


1. チルトサポートレバー

JMU26400

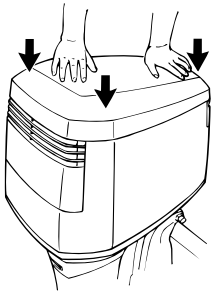
トップカウル取り外しレバー

このレバーを使ってトップカウルの取り外しができます。取り外す場合は、レバーを引きロックを解除しておこないます。



取り付けの際は次のようにします。

1. スパークプラグの高圧線や他の配線を引っかけないように注意してトップカウルをまっすぐにかぶせます。
2. 3箇所のロックの位置を合わせます。
3. トップカウル上面の前側と後ろ両側の3箇所を押さえてロックします。


ZMU03519

4. トップカウル上面の左右両端を押さえ、確実にロックされていることを確認します。ロックされていない場合は、もう一度やり直します。

JCM00070

⚠注　意

- **トップカウルを取り付ける前には、ロック用のケーブルが正しく作動することを確認してください。**
- **取り外しレバーを引いたときに、前側と後側のロックが同時に解除されます。もしそうでなければ、後側のロックの調整装置を使って調整してください。**
- **ケーブルは腐食しないようにして、スムースに動くようにしてください。**
- **ケーブルが正しく接続されていることを確認してください。**
- **トップカウル再取り付けの際は、前側と後側のロックが正しく作動していることを確認します。トップカウルが正しくロックできないときは、関連部品が運転中の衝撃等で損傷していることが考えられます。**

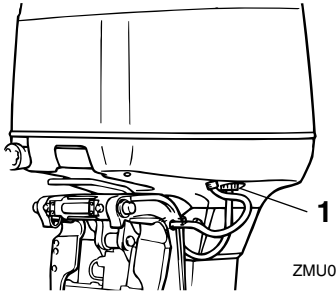
JMU26460

水洗装置

水洗装置は、水道水ホースと水道水を使ってエンジンの冷却経路を洗浄するときに使用します。

要　点

使用方法について 37 ページを参照ください。



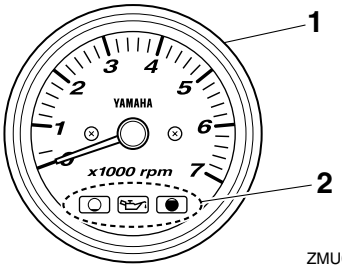
ZMU04139

1. 水洗装置

JMU26470

タコメータ（エンジン回転計）

このメータには、次の機能があります。



ZMU04577

1. タコメータ
2. 警告灯

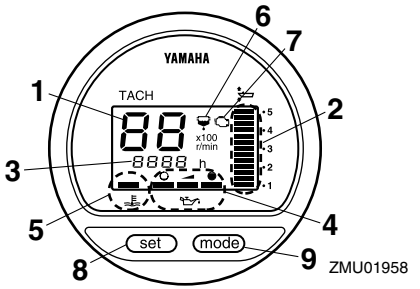
JMU26491

デジタルタコメータ

タコメータ（エンジン回転計）のほかに以下の機能が備えられています。

要　点

最初にエンジンスイッチを“**ON**”にした後、いちど全ての表示が点灯します。数秒後には通常の表示に変わります。



1. タコメータ
2. トリムメータ
3. アワーメータ
4. オイル残量表示／警告
5. オーバヒート警告灯
6. 水分離器警告灯
7. エンジン警告表示
8. セットスイッチ
9. モードスイッチ

要　点

水分離器警告灯とエンジン警告表示は、エンジン側に検出機能が有る場合にのみ作動します。

JMU26530

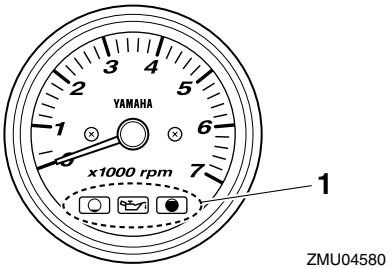
オイル残量警告灯

タコメータ内の各灯火は、オイル残量の状態を表示します。表示の詳細は、24 ページを参照ください。

JCM00030

⚠注　意

オイルを入れずにエンジンを運転しないでください。重大な損傷を招く恐れがあります。



1. オイル残量表示／警告

JMU26550

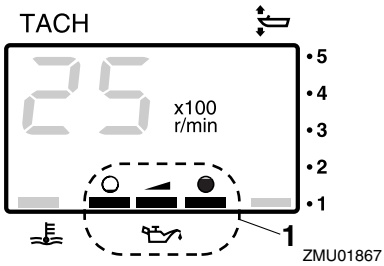
オイル残量表示（デジタル）

オイル残量の状態を表示します。表示の詳細は、17 ページを参照ください。

JCM00030

⚠注　意

オイルを入れずにエンジンを運転しないでください。重大な損傷を招く恐れがあります。

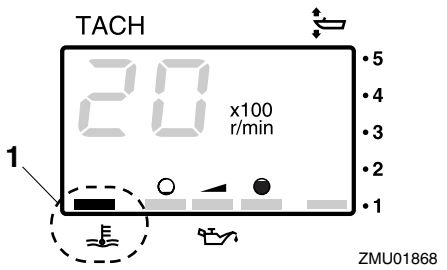


1. オイル残量表示／警告

JMU26581

オーバヒート警告表示

エンジン温度が異常に高くなったときにオーバヒート警告表示が点滅を始めます。表示の詳細は、16 ページを参照ください。



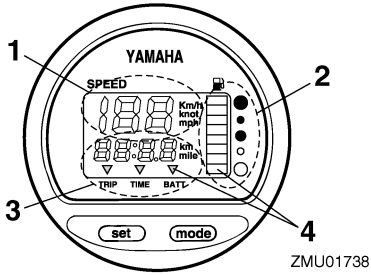
1. オーバヒート警告灯

警告機構が作動したときは、エンジンを停止してください。原因究明とその処置ができない場合は、ヤマハ取扱店へご相談ください。

JMU26600

デジタルスピードメータ

スピードメータのほかに、警告機能付燃料計、トリップメータ、時計および警告機能付電圧計の機能が備えられています。



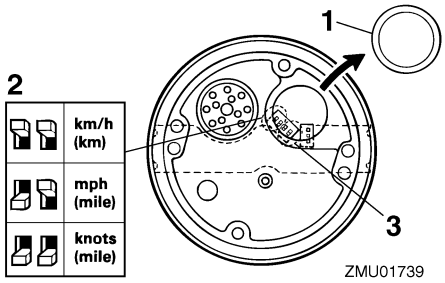
1. スピードメータ
2. 燃料計
3. トリップメータ／時計／電圧計
4. 警告灯

要　点

最初にエンジンスイッチを“**ON**”にした後、いちど全ての表示が点灯します。数秒後には通常の表示に変わります。

要　点

スピードメータは操船者の好みによってKm/h,mph,knots の表示が選べます。図のようにメータ裏側の切り換えスイッチを使って表示を選べます。

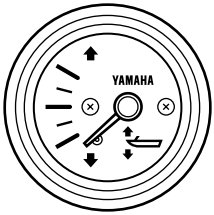


1. キャップ
2. スピード表示の切り換えスイッチ
3. 燃料表示の切り換えスイッチ

JMU26610

トリムメータ

船外機のトリム角度を表示します。



要　点

ボートの積載状態に応じた最適なトリム角度を覚えておくと便利です。PTT スイッチの操作で最適なトリム角度の調整ができます。

JMU26620

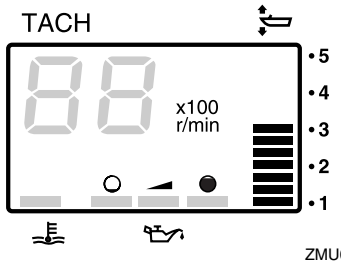
トリムメータ（デジタル）

船外機のトリム角度を表示します。

要　点

- ボートの積載状態に応じた最適なトリム

角度を覚えておくと便利です。PTT スイッチの操作で最適なトリム角度の調整ができます。
- 船外機の角度がトリム域を超えている場合は、トリムメータの一番上のブロックが点滅表示します。

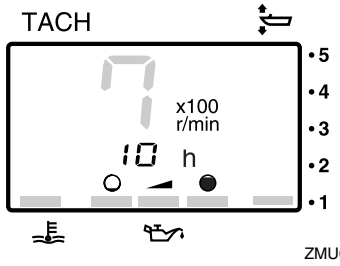


ZMU01869

JMU26650

アワーメータ（デジタル）

エンジン運転時間を表示します。表示／非表示及び総積算時間と任意の運転時間（トリップ）の切り替えが出来ます。



ZMU01870

- 表示切り替えの仕方
- “**mode**”スイッチを押す毎に次のように変わります。
- 総積算時間 → トリップ → 非表示
- トリップメータのリセット
- トリップメータを表示した状態で“**set**”スイッチと“**mode**”スイッチを同時に1秒以上押すと0に成ります。

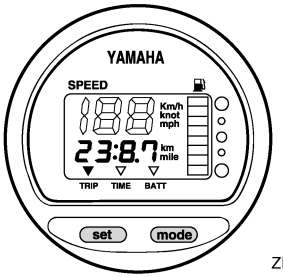
要　点

総積算時間は、リセットできません。

JMU26690

トリップメータ

航走距離を表示します。
メータ上に“**TRIP**”の表示が出るまで“**mode**”ボタンを数回押します。メータをリセット“0”に戻すためには、“**set**”と“**mode**”ボタンを同時に押します。



ZMU01743

要　点

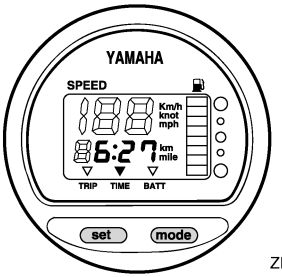
- 航走距離の表示はスピードで選んだ単位（キロメータ、マイル）で出ます。
- 航走距離はバッテリの電源によって記憶されます。バッテリを外したときは記憶が失なわれます。

JMU26700

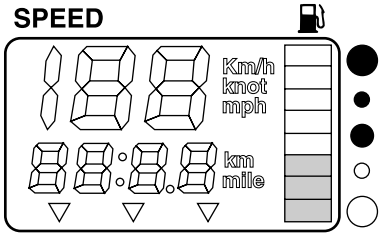
時計

時刻が表示されます。メータ上に“**TIME**”の表示が出るまで“**mode**”ボタンを数回押します。時刻の合わせ方は、次のようにします。

1. “**set**”ボタンを押して、“**TIME**”の表示を点滅させます。
2. “**mode**”ボタンを押して“時”を合わせます。
3. 再び“**set**”ボタンを押して、“分”の表示を点滅させます。
4. “**mode**”ボタンを押して“分”を合わせます。
5. 最後に“**set**”ボタンを押します。時計が動き始めます。



ZMU01744



ZMU01745

要　点

時計はバッテリの電源で動きます。バッテリを外したときは時計は止まりますので、バッテリ再接続後に時刻を合わせてください。

JMU26710

燃料計

燃料の残量は８つブロックで表示されます。満タン時は全てのブロックが点灯しています。

JCM00860

⚠注　意

専用燃料タンクには専用の残量検出器が装着されています。異なった検出器を使用した場合は、正しい表示をいたしません。表示が極端に異なる場合は、ヤマハ取扱店へご相談ください。

要　点

燃料残量の表示は検出器の取り付け位置やボートの航走状態によって影響を受けます。船首が上がっているときや旋回中は正しい表示をしないことがあります。

JMU26720

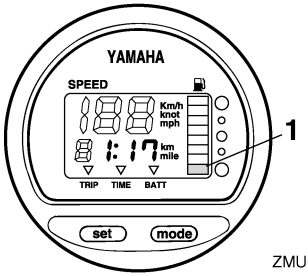
燃料警告灯

燃料計の表示ブロックが一番下まで下がった場合は、燃料警告灯が点滅を始めます。

JCM00880

⚠注　意

燃料警告装置が作動したら全速での運転を続けずに、低速にて帰港してください。



ZMU01746

1. 燃料警告灯

JMU26730

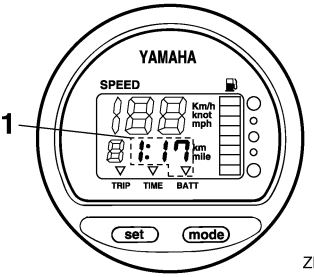
バッテリ電圧警告灯

バッテリの電圧が低下した場合は、バッテリ警告表示が点滅を始めます。

JCM00870

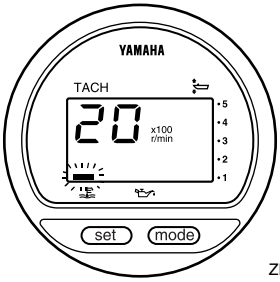
⚠注　意

バッテリー電圧低下警告装置が作動したら直ちに帰港してください。バッテリーの充電についてはヤマハ取扱店へご相談ください。



ZMU01747

1. バッテリ警告表示



ZMU01757

JMU26801

警告装置

JWM01370

⚠警　告

警告機構が作動したときは、エンジンを停止してください。原因の究明とその処置ができない場合は、ヤマハ取扱店へご相談ください。

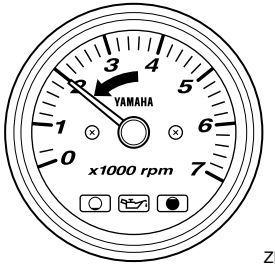
JMU26813

オーバヒート警告

この船外機にはオーバヒートを知らせる警告装置が装備されています。エンジンの温度が異常に上昇したときには、次のような警告を発します。

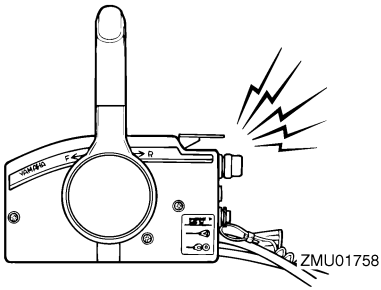
警告方法

- エンジンの回転数が自動的に 2000 回転付近まで低下します。
- オーバヒート警告灯が点灯します（ボトムカウル又は、タコメータに警告灯が装備されている場合）。

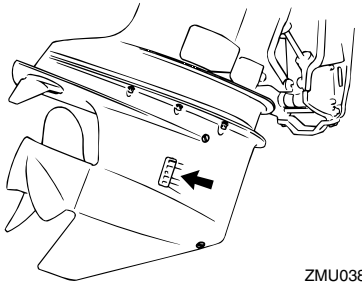


ZMU04766

- ブザーが鳴ります（ティラハンドル、リモートコントロールボックス又は、スイッチパネルにブザーが装備されている場合）。


ZMU01758

オーバヒート警告が作動した場合は、エンジンを停止して冷却水取入口の詰まりを点検してください。



ZMU03858

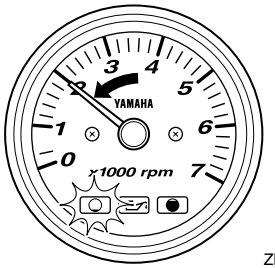
JMU26844

オイル残量 / オイルフィルタ詰まり警告

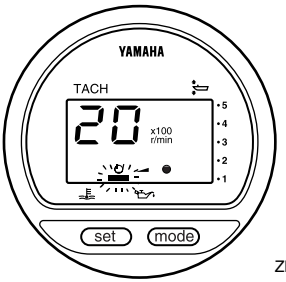
この船外機にはオイルの残量を知らせる警告装置が装備されています。オイル残量が規定量に達したときには、次のような警告を発します。

警告方法

- エンジンの回転数が自動的に 2000 回転付近まで低下します。
- オイル警告灯が点灯します

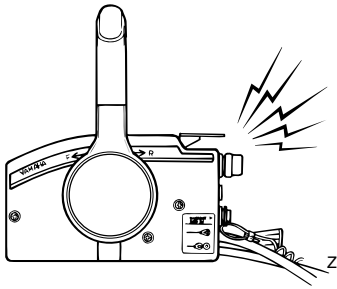


ZMU04586



ZMU03942

- ブザーが鳴ります

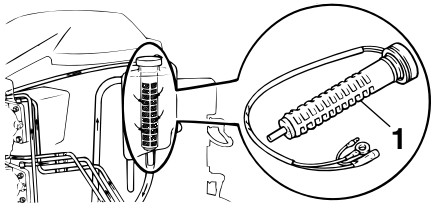


ZMU03025

オイル残量警告が作動した場合は、エンジンを停止して原因を調べてください。

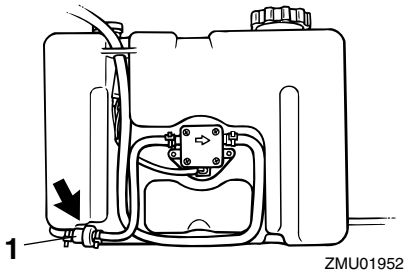
要　点

オイルフィルタ詰まり警告は、オイル残量警告と非常によく似ています。先にオイル残量を調べ、次にオイルフィルタの詰まりを調べてください。



ZMU03906

1. オイルフィルタ



1. オイルフィルタ

JMU26901

船外機の取り付け

JCM00110

⚠注　意

船外機の取り付け高さが不適切あるいは、航走時の水の流れを遮るような取付けを行った場合は、航行中にスプレー（飛沫）を揚げることが考えられます。スプレー（飛沫）を揚げながら航走を続けた場合は、エンジンが大きな損害を受ける恐れがあります。

要　点

水上でテストをする場合は、最大積載状態で船体の浮力を調べてください。その状態でエンジンを停止したときに、波が打ち寄せてきてもエンジン内部に水が逆流してこないように、補助排気孔が水面よりも十分に高い位置にあることを確かめてください。

JMU26910

ボートトランサムへの取り付け

JWM00820

⚠警　告

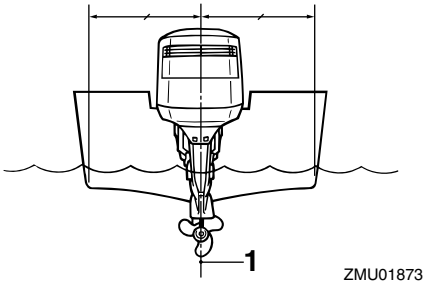
- **船体の最大搭載馬力を越える船外機の取り付けを、絶対に行わないでください。最大搭載馬力以上での運転時、船の安定性が著しく悪くなる可能性があります。最大搭載馬力が判らないときは、船体の製造業者にお問い合わせください。**
- **船外機と船体の組み合わせは多種多様なため、それぞれの仕様によって取り付け方法は必ずしも同一ではありません。ここでの説明は一般的な参考としてください。**

JWM00830

⚠警　告

- **船外機の取り付けが不適切な場合は操船が困難になるばかりでなく操船不能に陥ったり、また火災等の原因となる恐れがあります。**
- **ボルトを使って取り付ける場合は必ずヤマハ取扱店で行って下さい。**
- **クランプハンドルを使って取り付ける場合はヤマハ取扱店で取り付け方の指導を受けてから行なってください。**

船外機はボートトランサムの中央（船体中心）に取り付けます。その時に操船に支障をきたさないよう、ボートの安定性が良いことを確かめます。ボートの仕様等により取り付けが困難な場合はヤマハ取扱店にご相談ください。



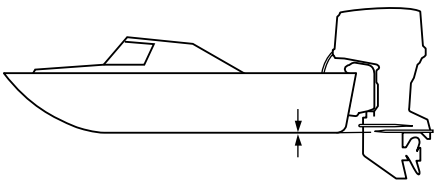
ZMU01873

1. センターライン（キールライン）

JMU26930

取り付け高さ（船底と同じ位置）

効率よく航走するためには、船外機と船体の水の抵抗を出来る限り減らす事が必要です。従って、船外機の取り付け高さは水の抵抗に大きく影響します。取り付け高さが高すぎる場合は、航走中にキャビテーションをおこし推進力が低下すると同時に、エンジン回転数が異常に高くなりオーバーヒート等の原因となる恐れがあります。取り付け高さが低すぎる場合は、水の抵抗が増え推進効率が悪くなります。一般的には、船外機キャビテーションプレートの位置が船底（キール）と同じ位置に来るように取り付けます。



ZMU01874

要　点

- 船外機とボートの仕様の組み合わせによっては、最良の取り付けの高さは異なってまいります。試走して最良の取り付け高さを決めてください。
- トリム角度については28ページを参照ください。

JMU27031

慣らし運転

新しいエンジンは、摺動部品の表面のなじみを出すために、慣らし運転の期間が必要です。慣らし運転を正しく行なうことにより初期性能をいかんなく発揮し、エンジンの構成部品の寿命も延びます。

JCM00830

⚠注　意

- **慣らし運転を怠ると、構成部品の寿命が減るばかりでなくエンジンに損傷を与える恐れがあります。**
- **慣らし運転期間中は、オイルインジェクションシステムに加えて混合ガソリンを併用しなければなりません。**
- **慣らし運転後は、ガソリンのみを使用してください。混合ガソリンを続けて使用しますと、酸素センサが損傷する恐れがあります。**

JMU30310

慣らし運転の手順（オイルインジェクション仕様）

航走しながら負荷をかけて行ないます。

1. 最初の 10 分間
   最低速回転で使ってください。
2. 次の 50 分間
   スロットル開度半分以下の範囲（およそ 3000 r/min 以下）で、エンジン回転数を変えながら使ってください。軽量な船の場合はエンジン回転が急激に上昇することがあります。そのときは、ただちにスロットルコントロールグリップを戻してエンジン回転を下げて使ってください。
3. 次の 2 時間
   滑走するまではスロットルを全開にし、その後 4 分の 3 開度付近でエンジン回転数を変えながら使ってください。但し、10 分間に 1 分間の割合で全開航走を取り入れてください。
4. 残りの 7 時間
   エンジン回転数を変えながら自由に運転してください。但し、全開航走は連続 5 分間を越えない範囲で、繰り返し取り入れてください。
5. 10 時間以降
   通常にご使用できます。燃料タンクには、ガソリンのみの給油としてください。オイルは、オイルインジェクションシステムによって適量が供給されます。

JMU27060

慣らし運転中の混合比（50:1）

	50:1			
	1 L (0.26 US gal, 0.22 Imp gal)	12 L (3.2 US gal, 2.6 Imp gal)	14 L (3.7 US gal, 3.1 Imp gal)	24 L (6.3 US gal, 5.3 Imp gal)
	0.02L (0.02 US qt, 0.02 Imp qt)	0.24 L (0.25 US qt, 0.21 Imp qt)	0.28 L (0.3US qt, 0.25 Imp qt)	0.48 L (0.51 US qt, 0.42Imp qt)

ZMU02442

1. ⛽: ガソリン
2. 🛢: エンジンオイル

JCM00150

⚠注　意

ガソリンとオイルはよくかき混ぜてください。エンジンに損害をあたえる恐れがあります。

JMU27101

出港前の点検

JWM00080

⚠警　告

出港前点検中に 1 つでも不具合が見つかったときには、修理や整備を済ませてから出港してください。事故につながる恐れがあります。

JCM00120

⚠注　意

冷却水を供給せずにエンジンを運転しないでください。オーバヒートしてエンジンが損傷します。

JMU27110

燃料

- 燃料が満タンになっていることを確認してください。
- 燃料漏れがないことを確認してください。
- 燃料ホースの接続が確実にできていることを確認してください（ヤマハ専用燃料タンク使用時）。
- 専用燃料タンクの場合は水平な場所に置き、燃料ホースが折れ曲がったり鋭敏なものと接触していないことを確認してください。

JMU27120

オイル

- 航行に必要なオイル量があることを確認してください。

JMU27130

作動系

- スロットル、シフト、ステアリングが正常に作動することを確認してください。
- 各作動部分に引っ掛かりや、余分な遊びが無くスムースに機能することを確認してください。
- 各接続部の緩みや取り付け状態を確認してください。
- 水上に降ろしてエンジン始動/停止スイッチの作動を確認してください。

JMU27150

エンジン本体

- エンジン取り付けボルトの緩みや、取り付けの状態を点検してください。
- プロペラの損傷を点検してください。
- バッテリの状態、バッテリコードの接続状態を点検してください。

JMU27200

長期保管後の運転

長期保管後に運転をするときは、次のようにしてください。

1. 混合ガソリン（オイル：ガソリン=1:50）を使ってエンジンを始動します。
2. アイドリング（無負荷最低速回転）で運転します。

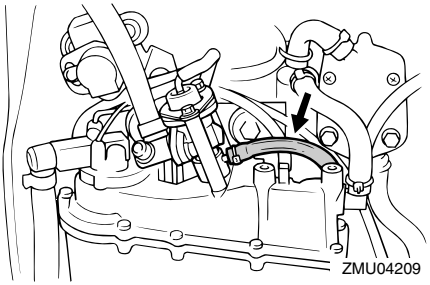
JWM00090

⚠警　告

- **エンジン運転中は電装部品に触れたり、外したりしないでください。**
- **エンジン運転中は、手、髪、衣服等を回転部品に巻き込まれないように近づけないでください。**

3. 各オイルパイプにオイルが送られていることを点検します。エアが排除されれ

ば正常な状態です。10 分間運転してもオイルが送られていないときは、ヤマハ取扱店へご相談ください。


ZMU04209

JCM00890

⚠注　意

- **長期保管後に運転するときは、上記手順通りに行なってください。さもなければ、重大なエンジンの損傷を招く恐れがあります。**
- **上記作業後は、ガソリンのみを使用してください。混合ガソリンを続けて使用しますと、酸素センサが損傷する恐れがあります。**

JMU27233

燃料とオイルの給油

JMU30320

燃料タンクへの給油

JWM00060

⚠警　告

ガソリンは、高い引火性と爆発性があります。タバコ等の火気や他の火種になるようなものを近づけないでください。

1. 燃料タンクキャップを外します。
2. 注意しながら給油します。
3. 給油後は確実に燃料タンクキャップを締めます。こぼれた燃料はふきとってください。

JMU27291

オイルの補給（分離給油仕様 ）

この船外機には、全ての運転状態に合わせて最適なオイルの混合を行ない適切な潤滑が得られるように“オイルインジェクションシステム”が装備されています。燃料に混合ガソリンを使う必要はありません(慣らし運転期間中は除く)。オイルの残量はランプにより確認することが出来ます。詳細は、24 ページを参照ください。

オイルの補給は、以下の手順で行ないます。

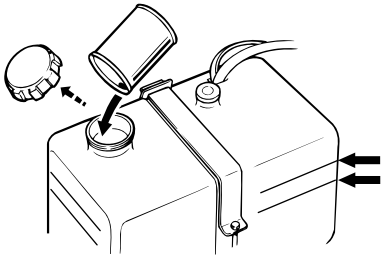
JWM00530

⚠警　告

オイルタンクの中には、ガソリンを入れないでください。火災や爆発の原因になります。

1. リモートオイルタンクにオイルを入れます。

エンジンオイルタンク容量；
1.2 L


ZMU01877

要　点

リモートタンク側面のラインは、タンクに注入できるエンジンオイル量を示すラインです。下のラインはあと約 3.8L（リットル）、上のラインはあと約 1.9L（リットル）のオイルが注入できることを示しています。

2. エンジンスイッチを“**ON**”にすると、自動的にエンジンオイルタンクに送油されます。エンジンオイルタンクが一杯になったら送油は自動的に止まります。

JCM00570

⚠注　意

最初にエンジンを始動する時や、一定期間保

管する時､リモートオイルタンクのオイルの量は５リットル以上にしてください｡リモートタンクのオイルの量が少ないと､送油ポンプ内に空気が入り正常に送油されない恐れがあります。

JMU27321

オイル残量表示

オイル残量は、以下のようになっております。

JMU27381

オイル残量警告灯

電動始動仕様

オイル残量警告灯（デジタルタコメータ）	オイル残量警告灯（アナログタコメータ）	エンジンオイルタンク	リモートオイルタンク	特記
	緑 	300 cm^3 以上 	1500 cm^3 以上 	● 補給の必要なし。
	黄 	300 cm^3 以上 	1500 cm^3 未満 	● オイルを補給してください。22 ページを参照ください。
	赤 – 黄 – 緑 	300 cm^3 未満 	1500 cm^3 以上 	● オイルフィルタの詰まりを点検。バッテリケーブルの接続を点検。 ● リモートコントロール仕様はブザーが鳴ります。 ● エンジン回転が 2000r/min 近くに下がります。
	赤 	300 cm^3 未満 	1500 cm^3 未満 	● エンジンオイルタンクへの補給は行われません。 ● リモートコントロール仕様はブザーが鳴ります。 ● エンジン回転が 2000r/min 近くに下がります。

JMU27450

エンジン操作

JMU27480

燃料供給

JWM00420

⚠警　告

- **エンジン始動前にはボートを確実に係留し、付近に障害物や遊泳者等が居ないことを確認してください。**
- **エアベントスクリュを緩めるときは、燃料がにじみ出たり燃料の揮発蒸気が洩れることがあります。火災や爆発の原因となりますので、煙草等の火気は近づけないでく**

ださい。
- **排気ガスは一酸化炭素を含み中毒をおこす恐れがあります。ボートハウスなどの閉め切った場所ではエンジンを始動させないでください。**

1. 燃料タンクにエアベントスクリュが装備されているものは、2～3 回転緩めます。
2. 燃料ホースコネクタが装備されている機種は、燃料ホースを確実に接続します。艇体に燃料コックが装備されているものはコックを開けます。
3. プライミングポンプの矢印を上に向け、固くなるまで握ったり離したりを繰り返します。



ZMU01770

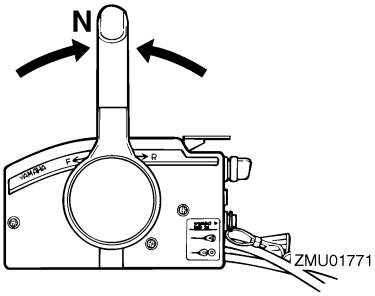
JMU27490

エンジン始動

JMU27662

電動始動の手順／リモートコントロール仕様

1. リモコンレバーを中立（ニュートラル）の位置にします。



ZMU01771

要　点

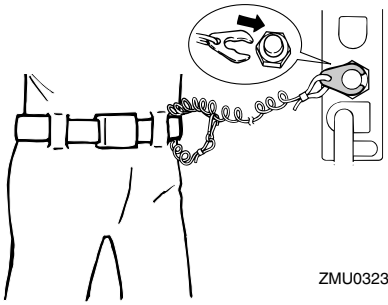
始動安全装置が作動するため、中立（ニュートラル）の状態でなければ、エンジンの始動はできません。

2. カールコードを衣服の丈夫な場所や手、足にしっかりと付け、ロックプレートを緊急エンジン停止スイッチに差し込みます。

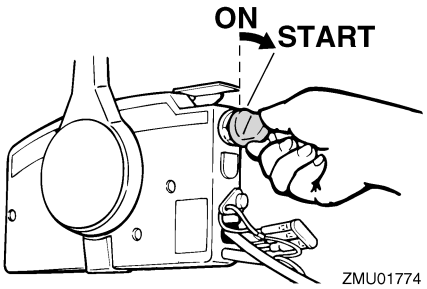
JWM00120

⚠警　告

- **操船中はカールコードを衣服の丈夫な場所や手、足に確実に付けてください。**
- **衣服の緩みそうな場所にはカールコードを付けないでください。また、操船に支障をきたすような場所への取り付けは行なわないでください。**
- **航走中はカールコードが身体や周辺の機器等に引っ掛かり不意にロックプレートが外れないようにしてください。操船に支障をきたすばかりでなく、ロックプレートが外れることにより急減速され同乗者や荷物等が前方へ投げ出される恐れがあります。**


ZMU03239

3. エンジンスイッチを“ON”の位置まで回します。
4. エンジンスイッチを“START”の位置まで回してエンジンを始動させます。



ZMU01774

5. 始動後はただちにスイッチを“ON”の位置にします。

JCM00191

⚠注　意

- **スタータモータは、連続して5秒以上回さないでください。スタータモータを5秒以上連続して回すと、バッテリが上がりエンジンが始動できなくなる恐れがあります。5秒以内でエンジンが始動しない時は、10秒たってからもう一度行なってください。**
- **エンジン運転中は、エンジンスイッチを“START”の位置にしないでください。**

要　点

- エンジンが冷えているときは、暖機運転を行ないます。暖機運転については、26ページを参照ください。
- 1回で始動しない場合は、同じ操作を繰り返します。4～5回行なっても始動しない場合は、53ページを参照ください。又、エンジンが暖まった状態での始動が困難な場合は、スロットルを少し開いて行ってください。

JMU27670

暖機運転

JMU27702

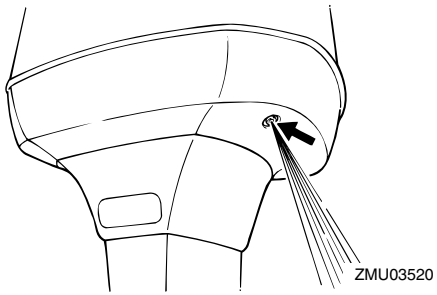
電動始動／プライムスタート仕様

1. エンジン始動後は、3分間以上アイドリング（無負荷最低速運転）状態で運転してエンジンを暖めてください。（暖機運転を怠るとエンジンの寿命が短くなることが考えられます。）
2. パイロットホールから勢いよく水が出ていることを確認してください。

JCM00511

⚠注　意

パイロットホールから勢いよく水が出ている状態は、ポンプが冷却水をくみ上げエンジン内を循環させていることを示します。パイロットホールから水が出ていないときは、オーバヒートによる大きな損傷の原因となりますので、使用を中止してください。冷却水取入口が詰まっている場合は、エンジンを停止させてから取り除いてください。回復しないときは、ヤマハ取扱店へご相談ください。


ZMU03520

JMU27740

前進／後進

JWM00180

⚠警　告

前進、後進をする前には、附近に遊泳者や障害物等が無いことを確認してください。

JCM00220

⚠注　意

前進、後進の操作を行なう時、エンジン回転は最低回転の状態まで下げてから行ってください。

JMU27763

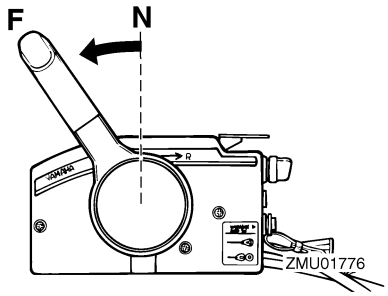
前進（ティラーハンドル仕様／リモートコントロール仕様）

ティラーハンドル仕様

1. スロットルコントロールグリップを全閉の状態にします。
2. ギヤシフトレバーをすみやかに中立（ニュートラル）から前進側へ倒します。

リモートコントロール仕様

1. ニュートラルインタロック（サイドマウント仕様）を引き上げ、すみやかにリモコンレバーを前進側（船首側）へ倒します。



JMU27784

後進

JWM00190

⚠警　告

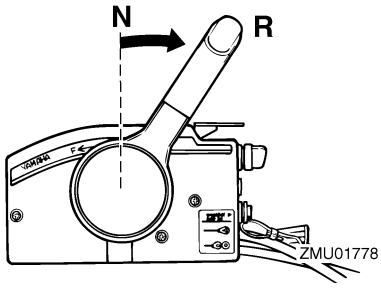
後進する際は、ゆっくりと行なってください。スロットルを半分以上開けないでください。ボートが不安定になり、操船に支障をきたし事故につながる恐れがあります。

ティラーハンドル仕様

1. スロットルコントロールグリップを全閉の状態にします。
2. ギヤシフトレバーをすみやかに中立（ニュートラル）から後進側へ倒します。

リモートコントロール仕様

1. ニュートラルインタロック（サイドマウント仕様）を引き上げ、すみやかにリモコンレバーを後進側（船尾側）へ倒します。



JMU27820

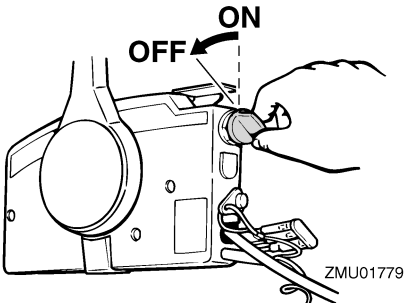
エンジン停止

数分間、アイドリング（無負荷最低速回転）でエンジンを冷やしてから行なってください。高いエンジン回転での航走後は、すぐにエンジンを停止しないでください。

JMU27844

エンジン停止ボタン／エンジンスイッチ仕様

1. エンジン停止ボタンを数秒間押します、またはエンジンスイッチを“**OFF**”の位置へ回します。（機種や仕様によって異なります）



2. エンジン停止後は燃料ホースコネクタを外します。
3. 燃料タンクにエアベントスクリュがある場合は閉めます。
4. キーを抜きます。

要　点

カールコードを引っ張って緊急エンジン停止スイッチからロックプレートを引き抜いてもエンジンは停止します。このとき、エンジンスイッチは必ず“**OFF**”にしておきます。

JMU27861

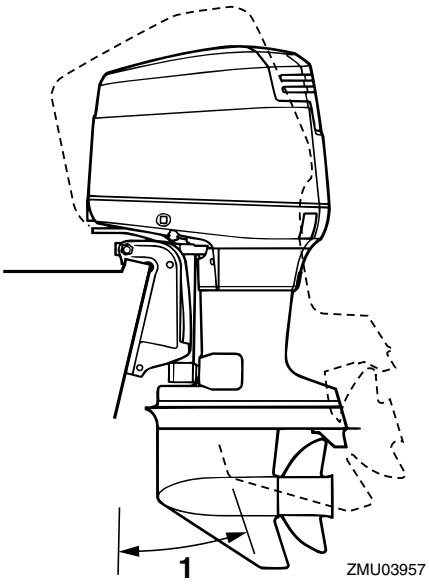
船外機トリム角度

船外機のトリム角度は、航走中のボートの船首の高さの位置決めに使います。トリム角度が適正であれば、最大限の性能が発揮され燃費も向上します。適正なトリム角度は、船体、エンジン、プロペラの組み合わせで決まります。また、適正なトリム角度は、ボートの負荷、海況、航走スピード等によって変わります。

JWM00740

⚠警　告

過度なトリム角度の調整は、ボートの安定性や操船に支障をきたし事故につながる恐れがあります。ボートの安定性や操船に異常を感じた場合は、ただちに航走スピードを落とすかトリム角度の再調整を行なってください。



1. トリム範囲

JMU27881

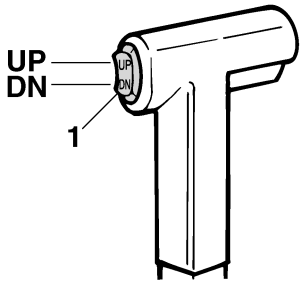
トリム角度の調整（パワートリムアンドチルト仕様）

JWM00750

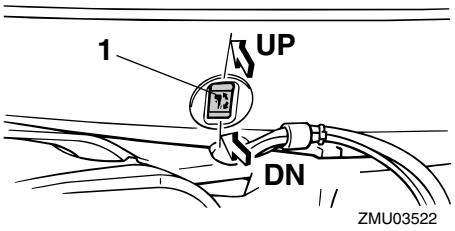
⚠警　告

- **トリム / チルト角度を調整するときは、船外機の周辺に人がいないことを確認し、身体を挟まれないように注意をして行なってください。**
- **トリム角度を変えて最初に操船するときは、細心の注意を払ってください。徐々に速度を上げ、船体の安定性や操作系に問題が無いかどうか確認しながら行なってください。不適切なトリム角度は操船に支障をきたします。**
- **ボトムカウルの PTT スイッチを使用する場合は停船してから行なってください。**

トリム角度の調整は、PTT スイッチで行ないます。



1. PTT スイッチ



1. PTT スイッチ

船首を上げる場合は、“**UP**”側のスイッチを押します。
船首を下げる場合は、“**DN**”側のスイッチを押します。
トリム角度を変えて試走を行ない、ボートの種類や使用の状態に合わせて最適な角度を選んでください。

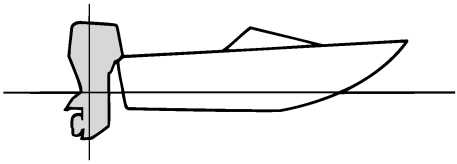
要　点

航走時のトリム角度の調整は、リモートコントロール装置のPTT スイッチで調整してください。

JMU27911

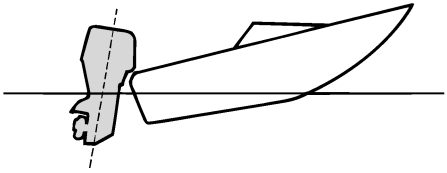
トリム角度の設定とボートの取り扱い

ボートが滑走しているときは、一般的に船首はキールラインが水面よりも3°～5°上がっている状態が安定性がよく効率もよくなります。船外機トリム角度を大きく取ったときは、ボートは左右どちらかにハンドルを取られる傾向を示す場合があります。そのときはステアリング操作で補ってください。またはトリムタブの調整で補うこともできます。



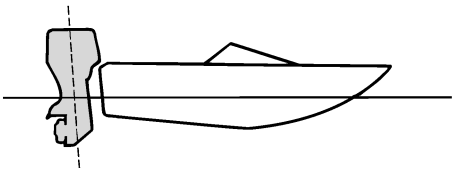
船首上がり

船外機のトリム角度を大きく取りすぎた場合は、航走中に船首が上がり過ぎます。この状態は船底への水の抵抗が増し、性能や燃費が低下します。更に過度のトリムアップは、プロペラがエアドローを引き起こし大きな性能低下を招きます。また、ボートが飛び跳ね乗員が船外へ投げ出される恐れもあります。



船首下がり

船首が下がっているときは、停止状態からの発進加速が良くなります。高速航走での過度のトリムダウン（トリムイン）は、船首の抵抗が大きくなり、操船が困難となりボートの安定性を欠き危険を招く恐れがあります。



ZMU01786

要　点

ボートの種類によっては、船外機のトリム角度の調整を行なっても航走姿勢が殆ど変化しないこともあります。

JMU27933

チルトアップ／ダウン

係留保管や浅瀬での係留時には、電食（水中の微弱電気による金属の腐食）や海草類の付着によってプロペラやロワケースが損傷を受けないように船外機をチルトアップします。

JWM01130

⚠警　告

- **チルトアップ / ダウンの操作をするときは、付近に人が居ないこと確認してください。また、船外機に身体を挟まれないように注意してください。**
- **燃料漏れは火災を招く恐れがあります。長時間チルトアップする場合は燃料が漏れることがありますので、燃料ホースコネクタを外すか燃料コックを閉じてください。**

JCM00241

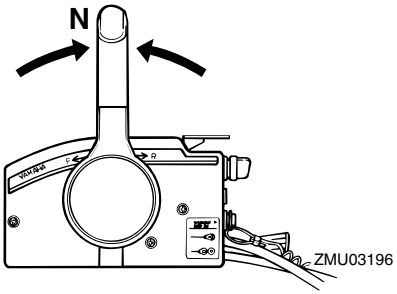
⚠注　意

- **エンジンを停止してからチルトアップしてください。エンジン運転中にチルトアップした場合、オーバヒートによる損傷を受けます。**
- **ティラーハンドル仕様の場合は、ハンドルを押さえつけてチルトアップしないでください。ティラーハンドルを損傷させる恐れがあります。**

JMU28005

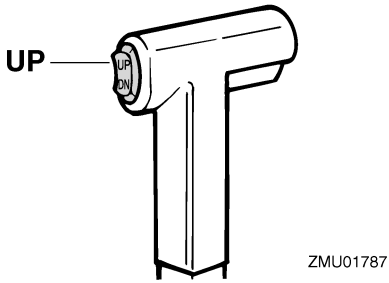
チルトアップ（パワートリムアンドチルト仕様／パワーチルト仕様）

1. リモコンレバー／ギヤシフトレバーを中立（ニュートラル）の位置にします。

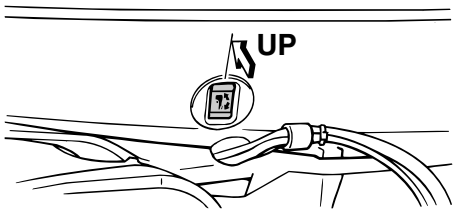


ZMU03196

2. 燃料ホースコネクタを外すか燃料コックを閉じます。
3. PTT スイッチの“**UP**”側を押して船外機をいっぱいまでチルトアップさせます。

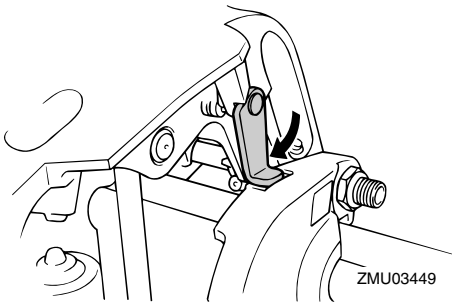


ZMU01787



ZMU03523

4. チルトサポートノブ付きは、チルトサポートノブをクランプブラケットへ押し込んで船外機をささえます。
   チルトサポートレバー付きは、チルトサポートレバーをクランプブラケットの方へ回して船外機をささえます。



JWM00260

⚠警　告

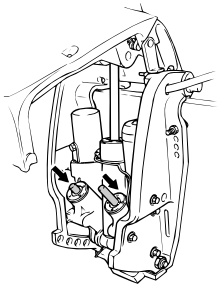
- **チルトアップ後は必ずチルトサポートレバー／ノブを押し込んで船外機を保持してください。パワートリムアンドチルトユニットの油圧が抜けて船外機が不意にチルトダウンする場合があります。**
- **チルトサポートレバー／ノブで保持したままの運転は絶対に行なわないでください。**

5. トリムロッド付きは、一度チルトサポートレバーで船外機を保持した後、PTTスイッチの“**DN**”側を押してトリムロッドを縮めます。

JCM00250

⚠注　意

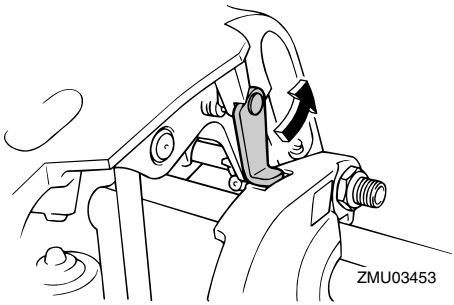
係船中は必ずトリムロッドをいっぱいまで縮めてください。パワートリムアンドチルト機構に損害を及ぼす恐れのある海藻類や電蝕からトリムロッドを保護します。



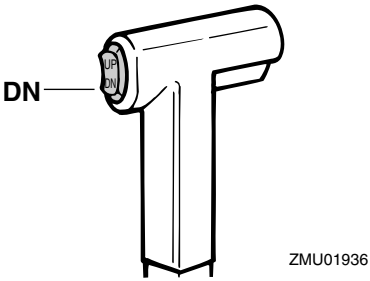
JMU28052

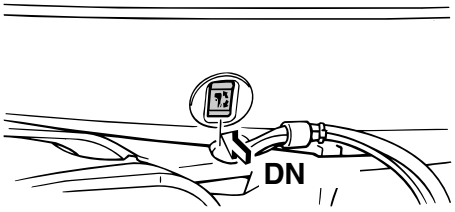
チルトダウン（パワートリムアンドチルト仕様／パワーチルト仕様）

1. PTTスイッチの“**UP**”側を押し、いっぱいまでチルトアップされた状態にします。
2. チルトサポートレバーを元の位置に戻します。又は、チルトサポートノブを引き出し、元の位置に戻します。



3. PTTスイッチの“**DN**”側を押してチルトダウンさせます。





ZMU03524

JMU28060

浅瀬航走

JMU28090

パワートリムアンドチルト仕様／パワーチルト仕様

この船外機は少しチルトアップした状態で、プロペラの位置を水底から遠ざけることにより浅瀬を航走することができます。

JWM00270

⚠警　告

- **シフトを中立（ニュートラル）にしてから、浅瀬航走の操作を行なってください。**
- **水中の障害物等にロワケースが衝突した場合、水面上にはね上がり操船に支障をきたす恐れがあります。**
- **過大な後進出力を使用した場合は、水面上にプロペラがはね上がり大きな事故の原因となる恐れがありますので、十分に注意をしてください。**
- **水深の有る場所へ来たら、ただちに元の位置に戻してください。**

JCM00260

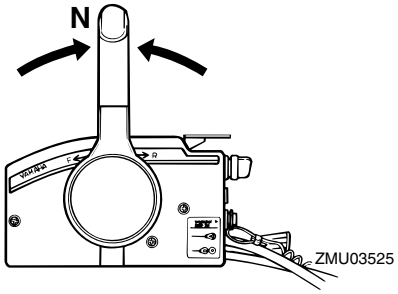
⚠注　意

浅瀬航走中は冷却水取入口が水面上へ出るまでチルトアップしないでください。オーバヒートによる大きな損傷を受けることが考えられます。

JMU28184

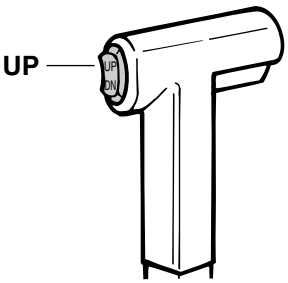
浅瀬航走セットの手順(パワートリムアンドチルト／パワーチルト)

1. ギヤシフトレバーを中立（ニュートラル）にします。

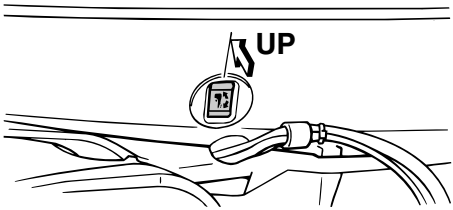


ZMU03525

2. パワーチルトスイッチで船外機を少しチルトアップさせます。この状態で浅瀬航走ができます。



ZMU01935



ZMU03527

JMU28190

他の航走状況

塩水域でご使用された後は、塩分の結晶で冷却水経路が詰まらないようにご使用の都度、真水で洗浄してください。

要　点

冷却経路の洗浄については、34 ページを参照ください。

泥水域でご使用される場合は、別売のクロームメッキウォータポンプキット（機種によっては無し）の取り付けをお勧めいたします。ヤマハ取扱店へお問い合わせください。またご使用の都度、真水で冷却水経路を洗浄してください。

JMU30611

仕様諸元

寸法:
全長:
854 mm
全幅:
562 mm
全高　X:
1785 mm
トランサム高さ　X:
641 mm
重量 （ステンレス） X:
237.0 kg

性能:
全速回転範囲:
4500–5500 r/min
最高出力:
225FETO 165.5 kW@5000 r/min
250BETO 183.9 kW@5000 r/min
アイドリングスピード（中立時）:
730 ±30 r/min

エンジン:
エンジン種別:
2ストローク V
総排気量:
3130.0 cm^3
内径 x 行程:
90.0 × 82.0 mm
点火方式:
ＣＤＩ （マイクロコンピューター）
スパークプラグ （ＮＧＫ):
BR9HS-10
ギャップ （隙間):
0.9–1.0 mm
操作系方式:
リモートコントロール
始動方式:
電動
始動系:
電子燃料噴射
バッテリ容量（上限一下限):
95E41–115F51
発電出力 （バッテリー用ＤＣ）:
35.0 A

ドライブユニット:
ギヤシフト位置:
F-N-R
減速比:
1.81 (29/16)
トリム / チルト方式:
パワートリム / パワーチルト
プロペラマーク:
T / M

燃料とオイル:
推奨燃料:
無鉛ガソリン
推奨エンジンオイル:
ヤマハ船外機ＳＳ オイル
潤滑方式:
分離給油
エンジンオイルタンク容量:
1.2 L
サブオイルタンク容量:
10.5 L
推奨ギヤオイル タイプ:
船外機ギヤオイル
ギヤオイル容量:
1150.0 cm^3

締付トルク:
スパークプラグ:
25.0 Nm (2.55 kgf-m)
プロペラナット:
55.0 Nm (5.61 kgf-m)

JMU28222

運搬と保管

JWM00690

⚠警　告

燃料漏れは火災の原因となります。運搬および保管時は燃料漏れを避けるためエアベントスクリュおよび燃料コックを閉じてくだ

さい。

JWM00700

⚠警　告

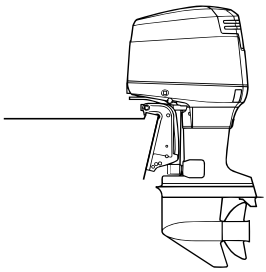
- **チルトアップしているときは、道具を使って保持している場合でも、船外機の下には入らないでください。偶発的原因で船外機が勢いよく降下して、身体が挟まれる恐れがあります。**
- **燃料を入れたまま陸上運搬しないでください。**

JCM00660

⚠注　意

ボートを牽引しているときは、チルトサポートレバー／ノブを使用しないでください。揺られてレバーが外れ、船外機が勢いよく降下してくることがあります。船外機を通常の航走状態と同じ姿勢で運搬できないときは、更なる保持道具を使ってチルトアップした状態で船外機を確実に保持できるようにしてください。

船外機の運搬は通常の航走状態と同じ姿勢で行なってください。このときに、路面から十分に間がとれない場合は、チルトアップして船外機を確実に保持できるような道具(トランサムバー等)を使用して運搬してください。詳しくは、ヤマハ取扱店へお問い合わせください。



ZMU04674

JMU28260

長期保管

船外機を長期にわたって保管する場合は、劣化損傷を防ぐためにヤマハ取扱店にて格納点検を受けられることをお奨めいたします。ご自身でやられる場合は、簡易的方法として次のようにしてください。

JCM01150

⚠注　意

- **けい素、リン、鉛等を含んだ防錆潤滑剤は使用しないでください。酸素センサ付き仕様は、酸素センサが損傷する恐れがあります。防錆潤滑剤に関しての詳しいことは、ヤマハ取扱店へお問い合わせください。**
- **フロート室に残っているガソリンは抜いてください。長期にわたってフロート室にガソリンが残っていた場合、ガソリンが変質し、燃料系統が損傷する恐れがあります。**

JMU28301

保管手順

JMU29953

水洗キット（オプション）を使った洗浄

JWM01390

⚠警　告

水洗キットを使う場合は、必ずプロペラを外してください。

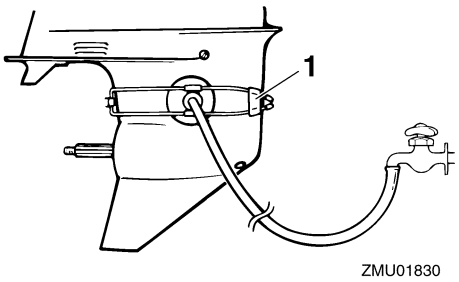
JCM00300

⚠注　意

冷却水を供給せずにエンジンを運転しないでください。ウォータポンプが壊れ、オーバヒートしてエンジンが損傷します。エンジン始動前には、冷却経路に水を供給してください。

1. 真水を使って船外機外部を洗ってください。(38 ページを参照ください。)
2. 燃料ホースコネクタを外します。燃料コックが有るものは閉じます。
3. トップカウルとサイレンサカバーまたは、吹き込み孔のキャップを外します。プロペラを外します。
4. 水洗キットのゴムカップが冷却水取入口をふさぐように取り付けます。副冷却水取入口がある場合は、ガムテープのよ

うなものでふさいでください。



ZMU01830

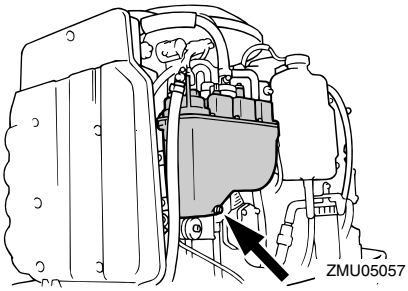
1. 水洗キット

5. 塩分、砂、ゴミなどによるエンジン冷却経路の目詰まりを防止するために洗浄が必要です。さらにエンジン内に防錆剤（マリンガード）を吹き込むことにより、錆による損傷を防ぐことができます。洗浄と吹き込みは同時に行ってください。

要　点

- 水洗キットを利用する場合、一定の水圧と水流を保ってください。
- オーバヒート警告装置が作動した場合は、エンジンを停止してヤマハ販売店にご相談ください。

6. シフトを中立（ニュートラル）にして、水道水を供給しながらエンジンを始動させます。
7. エンジンを停止させる前に、キャブレタまたは、サイレンサカバーの吹き込み孔に素早く防錆剤（マリンガード）を吹き込みます。排気に白煙が混じり、エンジンが止まります。
8. 容器を使ってベーパセパレータのドレンからで出るガソリンを受けながら、ドレンスクリュとキャップを外します。ドライバ等でエアバルブを押します。フロート室内に空気を導入して、ドレンからガソリンをスムーズに抜きます。



ZMU05057

9. 水洗キットを取り外します。
10. トップカウリングを取り付けます。
11. 防錆剤（マリンガード）が入手できない場合、手順６の後エンジンを停止します。その後、手順８を行ってください。
12. 船外機から冷却水を完全に抜き、表面をふきあげます。
13. 防錆剤（マリンガード）が入手できない場合、スパークプラグを外します。小量のエンジンオイルをシリンダ内へ注入します。手動でフライホイールロータを４～５回転させオイルを行き渡らせます。スパークプラグを取り付けます。

要　点

水洗キットはヤマハ販売店によりお求めになれます。

JMU28430

バッテリの取り扱い

JWM00330

⚠警　告

バッテリ取り扱い上のご注意

- **バッテリは引火性ガス（水素ガス）を発生しますので、取り扱いを誤ると爆発しけがをすることがあります。**
- **バッテリの液量がロアレベル以下の状態で使用又は充電すると、バッテリの劣化を早めたり、爆発の原因となるおそれがあります。**
- **火気厳禁＝ショートやスパークをさせたり、タバコ等の火気を近づけないでくださ**

い。爆発の恐れがあり危険です。
- 充電は風通しのよいところで行なってください。
- 落下等の強い衝撃を加えないでください。
- バッテリ液は希硫酸で、皮膚、目、衣服に付着すると侵されますので取り扱いには十分注意してください。
- 子どもの手の届くところに置かないでください。

応急手当
- 万一、バッテリ液が皮膚、衣服についたときは直ちに多量の水で洗い流してください。
- 目に入ったときは直ちに多量の水で十分に洗い、医師の治療を受けてください。

バッテリは製造業者によって違いがありますので、わからないことはバッテリ製造業者にお問い合わせください。

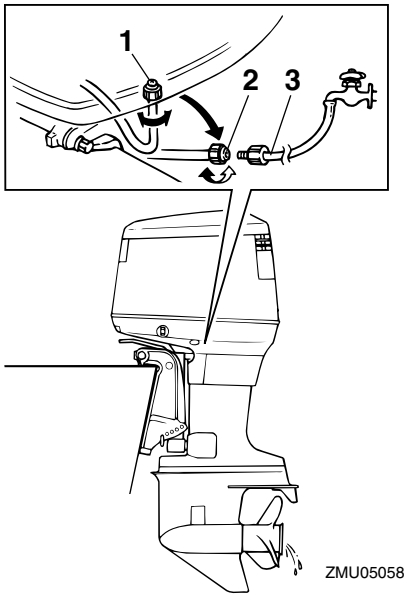
1. ショートしないように、常に(-)側のバッテリコードから先に外し、ボートからバッテリを降ろします。
2. バッテリ本体と各ターミナルを清掃します。蒸留水を各室液面の上限位置まで補給します。
3. 直射日光の当たらない、冷所で乾燥した換気のよい平らな場所で保管します。

JMU28440

エンジン内部冷却経路の洗浄

ご使用後はその都度、水洗装置を使って冷却経路を洗浄してください。

1. エンジンを停止します。
2. ボトムカウル上の固定場所から給水ホースの接続部分を外します。



1. 固定場所
2. 給水ホースの接続部分
3. 水道水ホース

3. 給水ホースの接続部分を水道水ホースへ接続します。
4. エンジンは停止させたまま、水道水を約15分間供給します。
5. 水道水の給水を止め、水道水ホースを外します。
6. 給水ホースの接続部分をボトムカウル上の固定場所へ確実に取り付けます。

JCM00540

⚠注　意

通常運転時は、給水ホースの接続部分をボトムカウルの固定場所で緩んだ状態や外れたままの状態にしないでください。冷却水が漏れてオーバーヒートの原因になります。洗浄後は、給水ホースの接続部分をボトムカウルの固定場所へ確実に取付けてください。

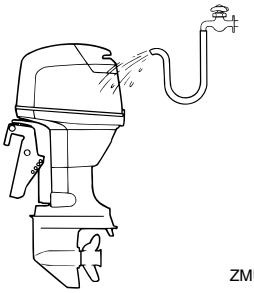
要　点

- 水上での洗浄はチルトアップしたほうが、より効果的です。
- 34ページにも冷却経路の洗浄を記載しております。

JMU28450

船外機の清掃

ご使用後は真水で船外機の外部を洗ってください。



ZMU02550

要　点

冷却経路の清掃は、34 ページを参照ください。

JMU28460

船外機外装の点検

船外機本体表面の傷、破損、塗装の剥がれ、変色（白化）等が無いかどうかを点検してください。必要に応じて、塗料を塗って補修してください。専用の塗料が用意されています。詳しくはヤマハ取扱店へお問い合わせください。

JMU28475

定期点検

JWM00300

⚠警　告

- **本書で指示なき作業等を行なうときは、必ずエンジンを止めてください。**
- **お客様自身が整備作業についてあまり熟知されていない場合は、ヤマハ取扱店へ作業を依頼してください。**

交換部品は必ず純正部品、または指定されたものを使ってください。

JMU28521

定期点検表

作業内容についての説明は本章の各項目を参照ください。
“●”印の項目については、お客様ご自身で点検を行なってください。
“○”印の項目については、最寄りのヤマハ取扱店に依頼してください。

項目	内容	初回		次回	
		10時間（1ヶ月）	50時間（3ヶ月）	100時間（6ヶ月）	200時間（1年）
アノード（外部取り付き）	点検／交換		●/○	●/○	
アノード（エンジン内部）	点検／交換				○
バッテリ	点検／充電	●/○			
冷却経路	清掃		●	●	
カウリングクランプ	点検				●
燃料フィルタ（分解交換タイプ）	点検／清掃	●	●	●	
燃料系統	点検	●	●	●	
燃料タンク（ヤマハ専用タンク）	点検／清掃				●
ギヤオイル	交換	●		●	
グリスポイント	注入			●	
アイドリングスピード（燃料噴射仕様）	点検／調整				○
エンジン冷却水圧コントロールバルブ（PCV）	点検				○
パワートリムアンドチルトユニット	点検				○
プロペラ／割ピン	点検／交換		●	●	
シフトリンク／シフトケーブル	点検／調整				○
サーモスタット	点検				○
スロットルリンク／スロットルケーブル／スロットルピックアップタイミング	点検／調整				○
ウォータポンプ	点検				○
オイルポンプ	点検／調整	○			
オイルタンク水溜	点検／清掃	●/○	●/○	●/○	
スパークプラグ	清掃／調整／交換	●	●	●	

項目	内容	初回		次回	
		10 時間（1ヶ月）	50 時間（3ヶ月）	100 時間（6ヶ月）	200 時間（1 年）
スロットルポジションセンサ	点検／調整				○

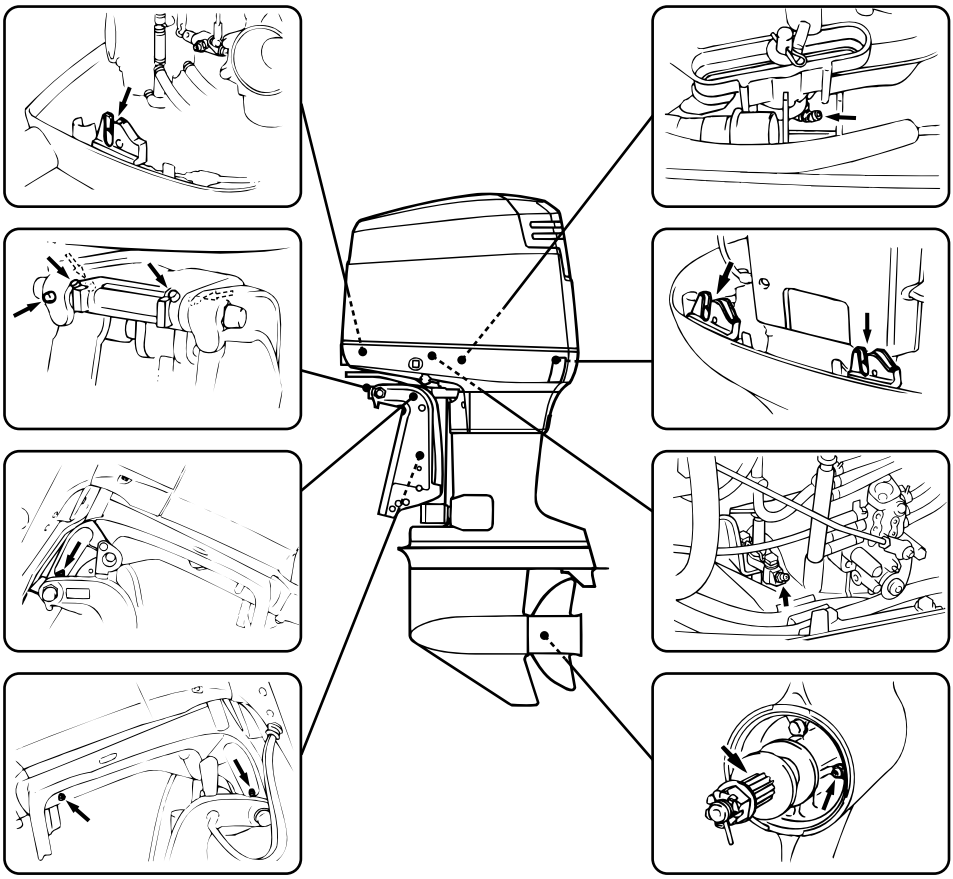
要　点

塩水や泥水等でのご使用後は、真水を使って洗浄してください。お客様の船外機の使用状況により、点検時間が異なる場合がありますのでご了承ください。詳しいことは、ヤマハ取扱店へご相談ください。

JMU28940

グリス給脂箇所

ヤマハグリス A （耐水グリス）
部品番号　90890-69910(50g)
90890-69911(250g)
ヤマハグリス D （耐食グリス）プロペラシャフト用
部品番号　90890-69920(50g)
225F, 250B



ZMU04210

JMU28951

スパークプラグの点検

JWM00560

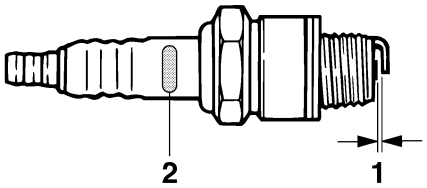
⚠警　告

スパークプラグ脱着の際は、碍子を損傷させないように注意してください。漏電して、火災等を誘発する恐れがあります。

スパークプラグは、点検が簡単なエンジンの重要な構成部品です。スパークプラグの状態は、エンジン性能に影響を与えます。スパークプラグは、電極にカーボン等が付着して徐々に劣化して行きますので、定期的に外して点検を行なう必要があります。電極が消耗していたり、カーボン等で汚損している場合は交換してください。

標準スパークプラグ；
BR9HS-10

電極の隙間は、シックネスゲージを用いて点検し、規定値に合わせてください。



ZMU02179

1. スパークプラグギャップ
2. スパークプラグ番号

スパークプラグギャップ；
0.9–1.0 mm

スパークプラグの取り付けは、取り付け面をきれいに拭いて規定トルクで締めてください。

スパークプラグ締め付けトルク；
25.0 Nm (2.55 kgf-m)

要　点

新しいスパークプラグを取り付ける際にトルクレンチが準備できない時は、指でいっぱいに締め込んだ後、プラグレンチを使用して1/4 ～ 1/2 回転締め込んでください。出来るだけ早い時期に、トルクレンチを使用して規定値で締めてください。

JMU28962

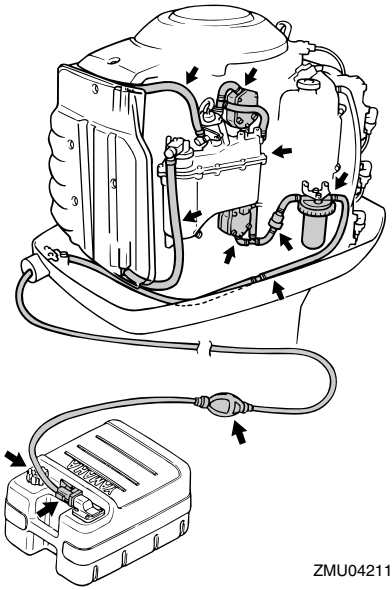
燃料系統の点検

JWM00060

⚠警　告

ガソリンは、高い引火性と爆発性があります。タバコ等の火気や他の火種になるようなものを近づけないでください。

燃料ホース等からの燃料洩れ、亀裂、詰まり等を点検してください。不具合が有れば、直ちにヤマハ取扱店で修理を行ってください。



ZMU04211

主な点検箇所
- 燃料系統部品からの燃料洩れ
- 燃料ホース接続部からの燃料洩れ
- 燃料ホースの亀裂や疲労

JWM00910

⚠警　告

- **燃料漏れは火災や爆発の原因となりますので、常に点検をしてください。**
- **燃料漏れが見つかった場合は、直ちにヤマハ取扱店で修理を行ってください。**

JMU28980

燃料フィルタの点検

JWM00310

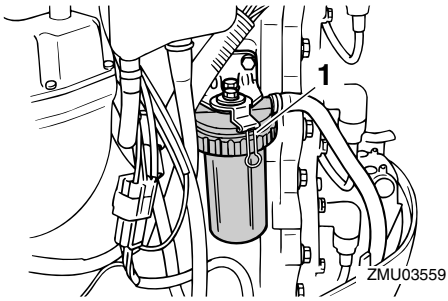
⚠警　告

- **ガソリンには、高い引火性と爆発性があります。**
- **作業上でなにかわからないことがあるときには、ヤマハ取扱店にご相談ください。**
- **本作業をエンジンが熱いときや運転中には行なわないでください。冷えてから行なってください。**
- **燃料フィルタにはガソリンが残っているので、タバコ等の火気や他の火種になるようなものを近づけないでください。**
- **作業中はガソリンがこぼれる恐れがあります。容器を使って回収しながら行なってください。こぼれた場合には直ちに拭き取ってください。**
- **作業は換気の良い場所で行なってください。専用燃料タンクはボートから降ろして行なってください。**
- **燃料フィルタの再組付けは注意深く確実に行なってください。組み付け不良や取り付け不良は、燃料がもれ火災や爆発の原因となる恐れがあります。**

JMU29012

エンジン本体燃料フィルタの清掃

1. 燃料フィルタ上部のロッキングタブを引き上げながら、フィルタカップのリングナットを緩めます。



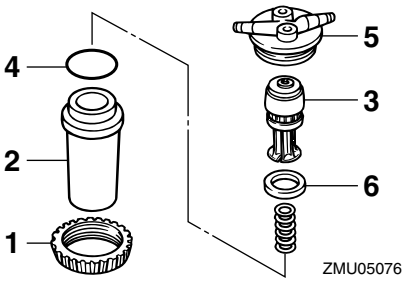
ZMU03559

1. クリップ

2. 容器を使ってこぼれたガソリンを回収しながら、フィルタカップを外します。
3. エレメントを外し、洗浄して乾燥させます。エレメントやOリングの状態を点検します。損傷のある場合は、交換します。もし燃料に水が混入している場合、燃料タンクの点検と清掃を行ってください。
4. フィルタカップにエレメントを入れ、O

リングを正しい位置に取り付けます。ロッキングタブを引き上げながら、フィルタカップをフィルタベースにリングナットを使って締め込み、軽く当たるところでいったん止めます。

5. そこからリングナットをおよそ 1/4 回転締め込みます。リングナット上の４つの大きめの凸部の 1 つにロッキングタブの溝をあわせます。その状態でロッキングタブを下ろします。



1. フィルタカップリングナット
2. フィルタカップ
3. フィルタエレメント
4. O- リング
5. フィルタハウジング
6. フロート

6. エンジンを始動させ、燃料フィルタや燃料ホースからの燃料洩れがないことを確認します。

要　点

燃料に水が混入した場合には、赤いフロートが浮上します。そのときには、フィルタカップを外して排水してください。

JMU29040

アイドリングスピード（無負荷最低速回転）の点検

JWM00450

⚠警　告

- **エンジン運転中は電装部品に触れたり、外したりしないでください。**
- **エンジン運転中は手、髪、衣服等が回転部品に巻き込まれないように注意してください。**
- **2　馬力はエンジン運転中は常にプロペラが回っていますので、暖機運転中はスロットルコントロールレバーを始動位置より開けないでください。ボートが思いがけなく動き出すと、事故につながる恐れがあります。**

JCM00490

⚠注　意

この作業は水上で行なってください。陸上で行なう場合は水洗キットや水槽を使って行なってください。

本作業は診断用のタコメータ（エンジン回転計）が必要です。水洗キットや水槽を使った点検では水上での点検結果と違うことがあります。

1. 中立（ニュートラル）でエンジンを始動させ、暖機運転を終了させます。2B 機種はスロットルコントロールレバーを始動の位置で暖機運転を終了させます。ボートに取り付けた状態で行うときは、確実に係留してください。
2. 規定のアイドリングスピード（34 ページを参照ください。）であるか点検します。

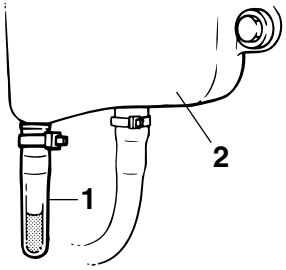
要　点

アイドリングスピードの点検はエンジンが完全に暖まった状態で行なってください。点検が困難な場合や調整が必要な場合はヤマハ取扱店へご相談ください。

JMU29050

オイルタンク内水溜まりの点検

オイルタンクの底に半透明のキャップが付いています。水や異物がこのキャップの中に溜まっているときは、ヤマハ取扱店へご相談ください。



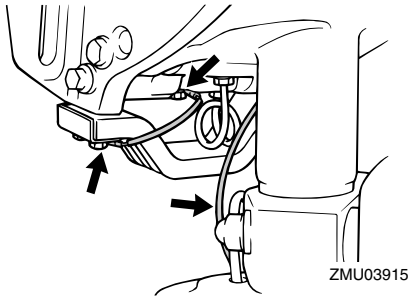
ZMU01895

1. キャップ
2. エンジンオイルタンク

JMU29111

配線と各接続部の点検

- 導通用の各アース線が確実に取り付けられていることを点検してください。
- 各配線の接続が確実にされていることを点検してください。



ZMU03915

JMU29120

排気ガス洩れの点検

エンジンを始動させ、クランクシリンダ（エンジン本体）部分等から排気ガス洩れの無いことを点検してください。

JMU29130

冷却水洩れの点検

エンジンを始動させ、クランクシリンダ（エンジン本体）部分等から冷却水洩れの無いことを点検してください。

JMU29153

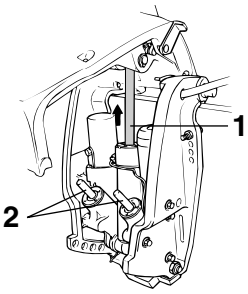
パワートリムアンドチルトユニットの点検

JWM00430

⚠警　告

- **チルトアップしているときは、チルトサポートレバーで保持している場合でも船外機の下には絶対に入らないでください。偶発的原因で船外機が突然降下して、身体が挟まれる恐れがあり危険です。**
- **船外機の下に誰もいないことを確認してから点検を行なってください。**

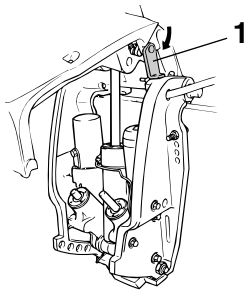
1. パワートリムアンドチルトユニットから、オイル漏れがないか点検します。
2. リモートコントロールとボトムカウル（装備されている場合）のPTTスイッチの作動を点検します。
3. 船外機をチルトアップしたときに、チルトロッドとトリムロッドがいっぱいに伸びているか点検します。



ZMU03531

1. チルトロッド
2. トリムロッド

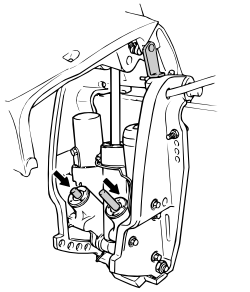
4. チルトサポートレバーを降ろします。少しチルトダウンして、船外機をチルトサポートレバーで保持します。



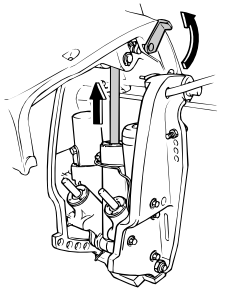
ZMU03533

1. チルトサポートレバー

5. チルトロッドとトリムロッドが腐食または損傷していないか点検します。
6. トリムロッドがいっぱいに縮むまで、チルトダウンします。


ZMU05037

7. チルトロッドがいっぱいに伸びるまで、チルトアップします。チルトサポートレバーを外します。


ZMU03532

8. 船外機をチルトダウンさせます。チルトロッドとトリムロッドがスムーズに作動するか点検します。

要　点

作動に異常がある場合は、ヤマハ取扱店へご相談ください。

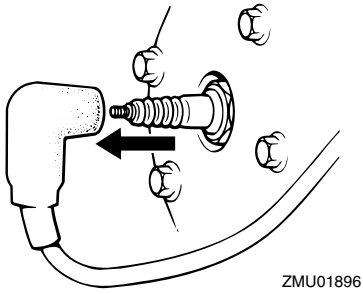
JMU29171

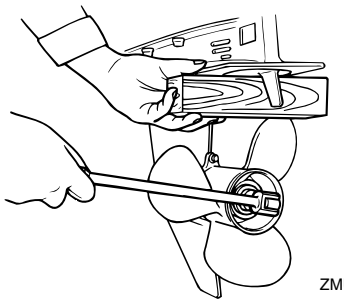
プロペラの点検

JWM00321

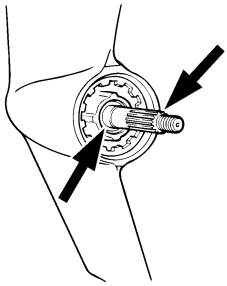
⚠警　告

- **プロペラ付近は偶発的原因でエンジンが始動したときに、大きな事故につながる恐れがあります。**
- **プロペラの点検や脱着等を行なう前には、全てのスパークプラグキャップをスパークプラグから外してください。さらにシフトを中立（ニュートラル）にし、エンジンスイッチからキーを抜き取り、緊急エンジン停止スイッチのロックプレートを外してください。またバッテリコードをバッテリから外してください。**
- **プロペラナットを締めたり緩めたりするときは手でプロペラを持たないでください。プロペラとキャビテーションプレートの間に木片等をかませてから行なってください。**


ZMU01896


ZMU01897

主な点検箇所
- プロペラブレードの減り、表面の侵食、損傷等の点検をします。
- プロペラシャフトの損傷等を点検します。
- シェアピン仕様は、シェアピンが損傷していないか点検します。
- プロペラシャフトに釣り糸が巻き込まれていないか点検します。
- プロペラシャフトのオイルシールが損傷していないか点検します。


ZMU01803

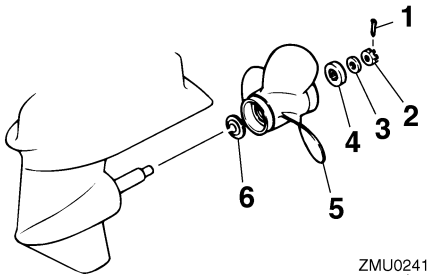
要　点

シェアピン仕様の場合は航走中にプロペラが水中の物体と衝突したときに折れて、船外機本体の動力伝達系を保護します。プロペラが空回りをしたときには、シェアピンを交換してください。

JMU29193

プロペラの取り外し

1. プライヤを使って割ピンを伸ばし、引き抜きます。
2. プロペラナット、ワッシャ、スペーサ（スペーサ付きの場合）を取り外します。



ZMU02416

1. 割ピン
2. プロペラナット
3. ワッシャ
4. スペーサ
5. プロペラ
6. スラストワッシャ

3. プロペラとスラストワッシャを取り外します。

プロペラナットの２面幅；
27mm

JMU29230

プロペラの取り付け

JCM00340

⚠注　意

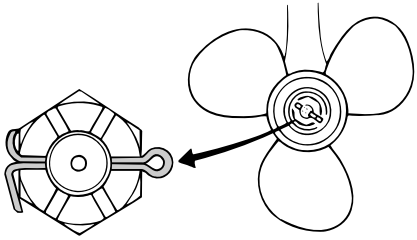
- **プロペラを取り付ける前には、スラストワッシャを必ず入れてください。プロペラとロワケースが接触し損傷する恐れがあります。**
- **割ピンは新しいものを使用して端を確実に折曲げてください。プロペラ脱落の原因となります。**

1. プロペラシャフトにヤマハグリスD（耐食グリス）を塗布します。
2. スラストワッシャを広がっている方からプロペラシャフトに入れ、プロペラを取り付けます。
3. スペーサ付きはスペーサを入れ、ワッ

シャを取り付けます。そしてプロペラナットを規定トルクで締め付けます。

規定トルク；
55.0 Nm (5.61 kgf-m)

4. プロペラシャフトとプロペラナットの穴位置を合わせ、割ピンを取り付けます。割ピンの端を折り曲げます。



ZMU03545

要　点

規定トルクでプロペラナットを締め付けたときにプロペラシャフトの穴位置が合わないときは、更に締め込んで穴位置を合わせてください。

JMU29281

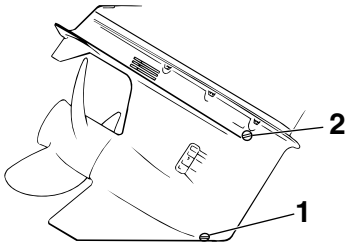
ギヤオイルの交換

JWM00800

⚠警　告

- **チルトアップされた船外機の下には入らないでください。偶発的に船外機が降りてきた場合には、重い事故につながる恐れがあります。**
- **船外機はボートトランサムや専用スタンドに確実に固定してください。**

1. ドレンプラグが真下にくる位置まで船外機を傾けます。
2. 廃油の受け皿をロワケースの下に敷きます。
3. オイルドレンプラグを外します。



ZMU01899

1. ギヤオイルドレンプラグ
2. オイルレベルプラグ

要　点

オイルドレンプラグが磁石仕様の場合、オイルドレンプラグに金属粉が付着していることがあります。取り除いてから再び取り付けてください。

4. オイルレベルプラグを外し、ギヤオイルを残らず排出させます。

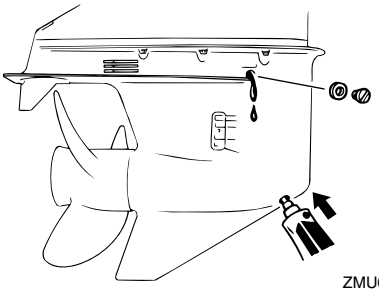
JCM00710

⚠注　意

排出したギヤオイルが白濁しているときは、ギヤケースの損傷等の恐れがあります。ヤマハ取扱店へ点検、修理を依頼してください。

5. 船外機を垂直状態に保ち、ヤマハ船外機ギヤオイル（ハイポイドギヤオイル #90）をオイルドレン穴より注入します。

ギヤオイル容量；
1150.0 cm^3


ZMU01900

6. 注入したギヤオイルがオイルレベル穴から溢れ出したら、オイルレベルプラグを締めます。次にオイルドレンプラグを締めます。

JCM01370

⚠注　意

オイルレベルプラグやオイルドレンプラグの緩みはロワケース内への水混入の原因となります。ガスケットを新しく交換して、確実に締め付けてください。

要　点

廃油の処理は、法律や条例等に従っておこなってください。

JMU29312

アノードの点検

アノードの役目は、船外機を電食（水中の微弱電気による金属の腐食）から保護するためのものです。外部アノードの状態を点検し、新品の 3 分の 1 以上が消耗している場合は交換します。外部アノードの交換は、ヤマハ取扱店で行なってください。

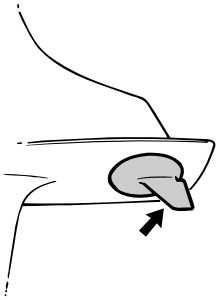
JCM00720

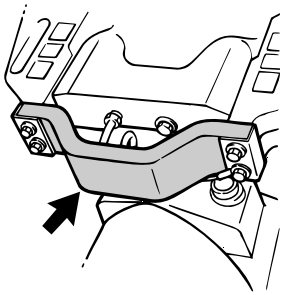
⚠注　意

アノードに塗料を塗った場合は、電食防止効果がなくなりますので注意してください。

要　点

外部アノードにアース線が付いている機種の場合は、アース線を点検してください。パワーユニットに付いている内部アノードの交換と点検についてはヤマハ取扱店にご相談ください。


ZMU01901


ZMU03461

JMU29320

バッテリの点検（電動始動仕様）

JWM00330

⚠警　告

バッテリ取り扱い上のご注意

- **バッテリは引火性ガス（水素ガス）を発生しますので、取り扱いを誤ると爆発しけがをすることがあります。**
- **バッテリの液量がロアレベル以下の状態で使用又は充電すると、バッテリの劣化を早めたり、爆発の原因となるおそれがあります。**
- **火気厳禁＝ショートやスパークをさせたり、タバコ等の火気を近づけないでください。爆発の恐れがあり危険です。**
- **充電は風通しのよいところで行なってください。**
- **落下等の強い衝撃を加えないでください。**
- **バッテリ液は希硫酸で、皮膚、目、衣服に**

付着すると侵されますので取り扱いには十分注意してください。
- 子どもの手の届くところに置かないでください。

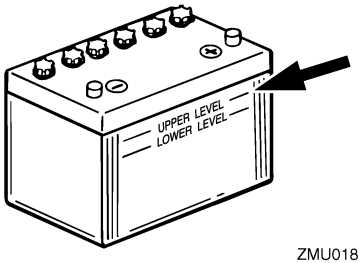
応急手当
- 万一、バッテリ液が皮膚、衣服についたときは直ちに多量の水で洗い流してください。
- 目に入ったときは直ちに多量の水で十分に洗い、医師の治療を受けてください。

JCM00360

⚠注　意

- バッテリの保管状態が悪い場合には、ただちに使用不能となります。
- 水道水はさまざまな物質が含まれているためバッテリに悪影響を与えます。電解液の補充用には使わないでください。

1. 月に一度の割合で、電解液の量を点検してください。電解液が減っている場合は、蒸留水を規定の位置まで補充してください。
2. 電圧計を用い、充電状態が良好かどうか点検してください。



ZMU01810

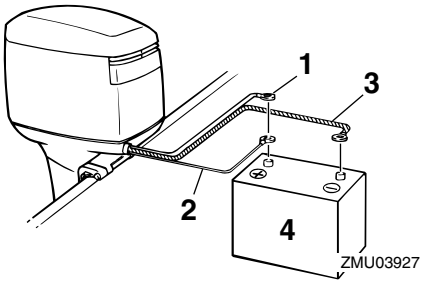
要　点

バッテリを充電または再充電される際は、ヤマハ取扱店へご相談ください。

JMU29351

バッテリの取り付け

バッテリは船内の乾燥した、換気の良い、振動の少ない水平な場所にしっかりと固定してください。バッテリコードの接続は最初に赤印端子を (+) 側に、続いて黒色端子を (-) 側に確実に取り付けます。



ZMU03927

1. 始動用バッテリコード（太い）
2. アクセサリ用バッテリコード（赤、細い）（オプション）
3. 黒バッテリコード（太い）
4. バッテリ

JCM01121

⚠注　意

- バッテリコードの脱着の際は、エンジンスイッチを“OFF”にしてから行なってください。
- バッテリコードの（+）と（-）を逆に接続すると、電装品の故障等の原因になります。
- バッテリコードの接続は赤（+）側を先に行ない、取り外しは黒（-）側を先に行ないます。逆の手順で行なった場合には、電装品に損傷を招く恐れがあります。
- バッテリ端子とバッテリコードの接続は、接触面がきれいな状態で確実に行なってください。接触面に汚れ、ゆるみ等があると電気の流れが悪くなり、エンジンの始動ができなくなる恐れがあります。

アクセサリバッテリと併用して使う場合(オプション)

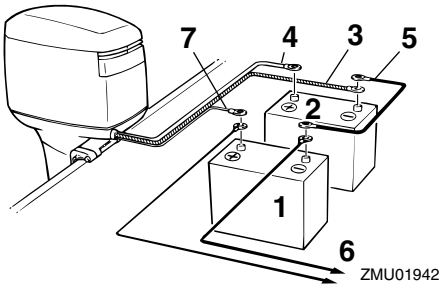
それぞれのバッテリの (-) 端子を始動用バッテリコードより太いコードを使って接続し

ます。図のように各コードを接続します。

JWM00600

⚠警　告

始動用バッテリコードより細いコードを使用した場合には、火災を招く恐れがあります。



1. アクセサリ用バッテリ
2. エンジン始動用バッテリ
3. 黒バッテリコード（太い）
4. 始動用バッテリコード（太い）
5. (-) バッテリコード
6. アクセサリ電源
7. アクセサリ用バッテリコード（赤、細い）（オプション）

要　点

バッテリ間の切り換えスイッチを取り付けたい場合は、ヤマハ取扱店へご相談ください。

JMU29370

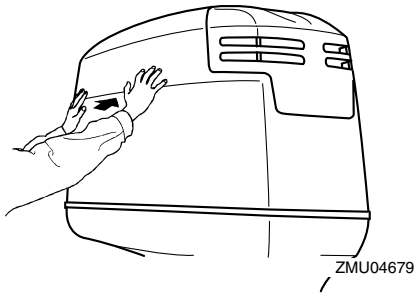
バッテリの取り外し

最初に (-) ターミナルからバッテリコードを外します。次に (+) ターミナルからバッテリコードを外します。

JMU29390

トップカウルの点検

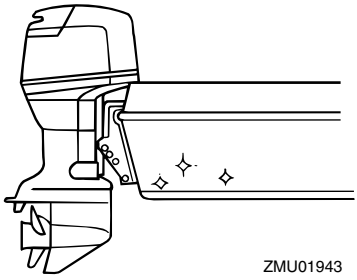
トップカウルを両手で押して、締まり具合を点検してください。
ガタ等がある場合は、ヤマハ取扱店で修理を行なってください。



JMU29400

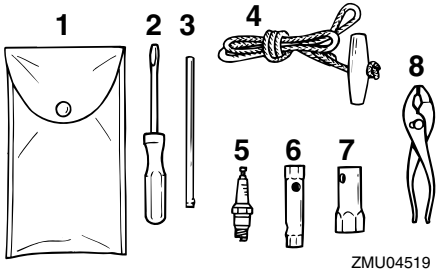
船底の清掃

船底の状態によってボートの性能は大きく変わります。船底の状態は、海藻や貝類が付着しないように常にきれいに保っておくことが必要です。必要で有れば、船底専用塗料を塗っておくと海藻や貝類が付着しにくくなります。塗料については、ヤマハ取扱店へお問い合わせください。



JMU30110

付属工具と部品



1. 工具袋
2. ドライバ (+/-)
3. ハンドル
4. 応急始動用ロープ
5. スパークプラグ（気筒数と同数）
6. ボックスレンチ (10-12)
7. プラグレンチ (21)
8. プライヤ

JMU29422

故障と対策

万一、故障が生じたときは、ヤマハ取扱店にご相談ください。一般的に考えられる故障を選び、その想定される原因を列記いたします。（機種や仕様により該当しない項目も含まれております）
不安な箇所がありましたら、できるだけそのままの状態でヤマハ取扱店に連絡し専門技術者におまかせください。
エンジン警告付き機種で警告表示が点滅している場合は、ヤマハ取扱店にご相談ください。

スタータモータが動かない

Q. バッテリの性能が低下していませんか？規定容量以外のバッテリを使用していませんか？
A. バッテリ状態の点検。規定容量のバッテリの使用。

Q. バッテリターミナルが緩んでいませんか？または腐食していませんか？
A. バッテリコードの締め付け、ターミナルの清掃。

Q. ヒューズが切れていませんか？
A. 原因を調べ、新しいものに交換。

Q. スタータモータが故障していませんか？
A. ヤマハ取扱店にて修理。

Q. 前進、または後進にシフトが入っていませんか？
A. 中立（ニュートラル）に戻す。

エンジンが始動しない。（スタータモータは動く）

Q. 燃料タンクが空になっていませんか？
A. 燃料を入れる。

Q. 燃料が汚染されている、または古くなっていませんか？
A. 新しい、きれいな燃料へ交換。

Q. 燃料フィルタが詰まっていませんか？
A. 清掃、または交換。

Q. 始動手順が間違っていませんか？
A. 25 ページを参照ください。

Q. 燃料ポンプが故障していませんか？
A. ヤマハ取扱店にて修理。

Q. スパークプラグが不良になっていませんか？または、推奨以外のスパークプラグを使用していませんか？
A. 電極の清掃、または交換。

Q. スパークプラグキャップが外れていませんか？
A. 正しく取り付ける。

Q. 配線が接続不良、または損傷していませんか？
A. 接続の確認、または配線の交換。

Q. 電装部品が故障していませんか？
A. ヤマハ取扱店にて修理。

Q. カールコードのロックプレートが外れていませんか？
A. 緊急エンジン停止スイッチにロックプレートを差し込む。

Q. エンジン内部が損傷していませんか？
A. ヤマハ取扱店にて修理。

アイドリング（無負荷最低速回転）が不安定、またはエンストする。

Q. スパークプラグが不良になっていませんか？

A. 電極の清掃、または交換。

Q. 燃料ホースが圧迫されていませんか？
A. 燃料ホース取り回しの点検。

Q. 燃料が汚染、または古くなっていませんか？
A. 新しい、きれいな燃料へ交換。

Q. 燃料フィルタが詰まっていませんか？
A. 清掃、または交換。

Q. 電装部品が故障していませんか？
A. ヤマハ取扱店にて修理。

Q. 警告機構が作動していますか？
A. ヤマハ取扱店にご相談ください。

Q. スパークプラグギャップが適切ですか？
A. 正規の隙間に合わせる。

Q. 配線が接続不良、または損傷していませんか？
A. 接続の確認、または配線の交換。

Q. 推奨外オイルを使用していませんか？
A. 推奨オイルへ交換。

Q. サーモスタットが不良になっていませんか？
A. ヤマハ取扱店にて修理。

Q. キャブレタが調整不良になっていませんか？
A. ヤマハ取扱店にて修理。

Q. 燃料ポンプが故障していませんか？
A. ヤマハ取扱店にて修理。

Q. エアベントスクリュが閉まっていませんか？
A. エアベントスクリュを開ける。

Q. チョークノブが引かれていませんか？
A. チョークノブを戻す。

Q. チルトを上げ過ぎていませんか？
A. チルトを下げる。

Q. キャブレタが詰まっていませんか？
A. ヤマハ取扱店にて修理。

Q. 燃料ホースが接続不良になっていませんか？
A. 接続箇所の点検。

Q. スロットルバルブが調整不良になっていませんか？
A. ヤマハ取扱店にて修理。

Q. バッテリコードが外れていませんか？
A. 確実に接続。

警告ブザーが鳴る、または警告灯が点灯する。

Q. 冷却経路が詰まっていませんか？
A. 冷却水取入口の点検。

Q. エンジンオイル不足になっていませんか？
A. 規定量まで補充。

Q. スパークプラグ熱価が適切ですか？
A. 正規熱価のものに交換。

Q. 推奨外オイルを使用をしていませんか？
A. 推奨オイルへ交換。

Q. オイルが劣化していませんか？
A. 新しいオイルへ交換。

Q. オイルフィルタが詰まっていませんか？

A. ヤマハ取扱店にて修理。

Q. オイルポンプが故障していませんか？
A. ヤマハ取扱店にて修理。

Q. ボートが過重荷になっていませんか？
A. ビルジ、積み荷等の確認。

Q. ウォータポンプ、またはサーモスタットが故障していませんか？
A. ヤマハ取扱店にて修理。

Q. 燃料フィルターカップ内に水が入っていませんか？
A. フィルターカップ内の排水。

エンジンの力がない。
Q. プロペラが損傷していませんか？
A. プロペラの交換。

Q. プロペラサイズが適切ですか？
A. 指定回転範囲に適合するプロペラへ交換。

Q. トリム角度が調整不良になっていませんか？
A. 再調整。

Q. 船外機取り付け高さが適切ですか？
A. 再調整。

Q. 警告機構が作動しますか？
A. ヤマハ取扱店にご相談ください。

Q. 船底への貝、海草類が付着していませんか？
A. 清掃。

Q. スパークプラグが適切ですか？
A. 電極の清掃、または交換。

Q. 船外機への貝、海草類が付着していませんか？
A. 清掃。

Q. 燃料ホースが圧迫されていませんか？
A. 燃料ホース取り回しの点検。

Q. 燃料フィルタが詰まっていませんか？
A. 清掃、または交換。

Q. 燃料が汚染、または古くなっていませんか？
A. 新しい、きれいな燃料へ交換。

Q. スパークプラグギャップが適切ですか？
A. 正規の隙間に合わせる。

Q. 電装部品が故障していませんか？
A. ヤマハ取扱店にて修理。

Q. 配線が接続不良、または損傷していませんか？
A. 接続の確認、または配線の交換。

Q. 推奨外オイルを使用していませんか？
A. 推奨オイルへ交換。

Q. サーモスタットが不良になっていませんか？
A. ヤマハ取扱店にて修理。

Q. 燃料ポンプが故障していませんか？
A. ヤマハ取扱店にて修理。

Q. エアベントスクリュが閉まっていませんか？
A. エアベントスクリュを開ける。

Q. 燃料ホースが接続不良になっていませんか？
A. 接続箇所の点検。

Q. スパークプラグ熱価が適切ですか？
A. 正規熱価のものに交換。

Q. 高圧燃料ポンプベルトが切れていませんか？
A. ヤマハ取扱店にて修理。

Q. シフトポジションスイッチが作動不良になっていませんか？
A. ヤマハ取扱店にて修理。

振動が大きい。
Q. プロペラが損傷していませんか？
A. プロペラの交換。

Q. プロペラシャフトが損傷していませんか？
A. ヤマハ取扱店にて修理。

Q. 海藻、貝類がプロペラへ付着していませんか？
A. 除去、清掃。

Q. 船外機取り付けボルト等が緩んでいませんか？
A. 締め付け。

Q. ハンドルスイベル部が緩み、または損傷していませんか？
A. 締め付け、またはヤマハ取扱店にて修理。

JMU29432

応急処置

JMU29440

衝撃を受けた場合

JWM00870

⚠警　告

船外機は航走中に、水中の浮遊物等との衝突による重大な損傷を受けることがあります。損傷を受けた船外機は安全に航走できません。

航走中の船外機に水中の物体が当たった場合は、次の手順に従ってください。



1. エンジンを停止してください。
2. 各部の作動を確認し、さらに各部品の損傷も点検してください。また、ボートの損傷具合も調べてください。
3. ゆっくりと細心の注意をはらいながら、最寄りの港へ引き返してください。
4. 再度ご使用になる前に、必ずヤマハ取扱店の点検を受けてください。

JMU29462

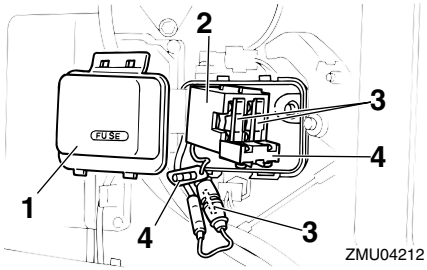
ヒューズの交換

ヒューズが切れたとき（電動始動仕様）はヒューズホルダーを開け、中のヒューズを新しい同容量のものと交換します。

JWM00630

⚠警　告

規定容量のヒューズを使用してください。規定容量以外のヒューズを使用すると、電装系の故障や火災の原因となる恐れがあります。



1. 電装カバー
2. ヒューズホルダ
3. ヒューズ（80A × 2, 20A）
4. スペアヒューズ（80A, 20A）

要　点

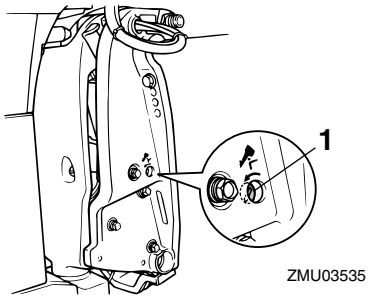
新しいヒューズに替えてもすぐに切れる場合は、ヤマハ取扱店にご相談ください。

JMU29520

パワートリムアンドチルト又は、パワーチルトが作動しない場合

バッテリが上がったり、ユニットの故障等でPTTスイッチを使ってチルトアップやチルトダウンの操作ができないときは、手動操作で行なう事ができます。

1. マイナスドライバ等を使ってリリーフバルブを反時計方向に止まるまで回します。



1. リリーフバルブ

2. トップカウルの後部を持って手動でチルトアップ / ダウンの操作を行ないます。
3. 好みの位置でリリーフバルブを元の位置まで締め付けるとそこでチルト角度が固定されます。

JMU29540

スタータモータが動かない場合

始動装置が作動しない場合（スタータモータが動かない場合）は、応急始動用ロープを使ってエンジンを始動することができます。ただしボートの仕様やぎ装状態によっては、操作が非常に困難な場合があります。また、バッテリ電圧が9V付近まで低下しているときは、燃料ポンプが作動しないためエンジン始動は出来ません。

JWM01020

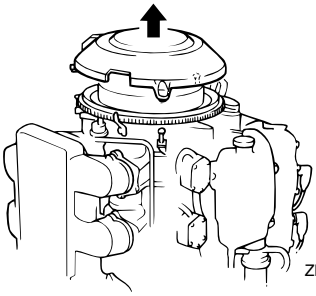
⚠警　告

- **非常時に最寄りの港へ引き返すときに限って、この操作を行なってください。**
- **シフトを必ず中立（ニュートラル）にしてください。ボートが急発進し、事故につながる恐れがあります。**
- **応急始動用ロープを引いてエンジンを始動させるときには、背後に人が居ないことを確認してください。**
- **エンジン始動の際には衣服等を巻き込まれないようにしてください。**
- **エンジン始動後にはフライホイールや他の回転部分に触れないようにしてください。**
- **エンジン運転中にはイグニションコイル、高圧線、スパークプラグ等に触れないようにしてください。感電する恐れがあります。**
- **2馬力の場合には、エンジン運転中常にプロペラが回転しています。スロットルを始動位置以上に開けないでください。ボートが不意に発進して事故につながる恐れがあります。**

JMU29581

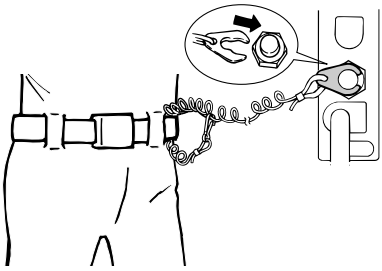
応急始動

1. トップカウルを外します。
2. フライホイールカバーを持ち上げて外します。



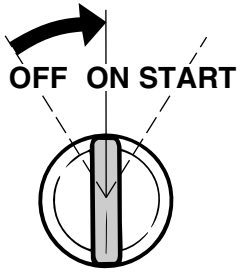
ZMU03536

3. 25ページを参照して始動の準備をします。シフトを中立（ニュートラル）にして、カールコードのロックプレートを緊急エンジン停止スイッチへ差し込みます。



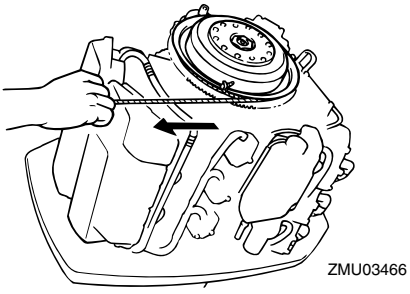
ZMU02334

4. エンジンスイッチを ON にします。



ZMU01906

5. 応急始動用ロープの結び目を、フライホイールの切り欠きに入れ、時計方向に 1 ～ 2 回巻き付けます。



ZMU03466

6. 抵抗を感じるところまでたるまないようにロープを引き、そこから一気に引きます。一度で始動しない場合は、同じ操作を繰り返してください。

JMU29670

エンジンが正しく作動しない場合

JMU29680

応急処置方法

エンジンの回転数が不安定になったり、停止したり、または始動しない場合は、非常用回路に切り換えて最寄りの港まで引き返し、点検修理をしてください。
この操作をする前に 53 ページを参照して、燃料の不足やオーバヒート等の原因がないかどうかを調べてください。

JWM01200

⚠警　告

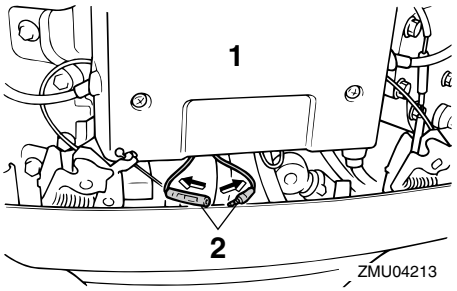
非常用回路を使っているときは、低速でのエンジン回転数が通常よりもやや高くなります。低速運転時は、注意して行なってください。

JCM01030

⚠注　意

非常用回路の使用は、非常時に修理のために最寄りの港まで引き返すときに限って行なってください。修理をせずに再使用しない

でください。



1. CDI ユニット
2. エマージェンシコネクタ

エンジン始動ができない場合は、次のようにしてください。

1. 船外機を垂直な状態にします。
2. 黄 / 白の配線を外します。CDI ユニット内の制御回路が直結されます。
3. ニュートラルスロットルレバー/フリーアクセレータを使って中立（ニュートラル）の状態でスロットルを少し開けます。エンジン始動後は元の位置に戻します。
4. 緊急エンジン停止スイッチにロックプレートを取り付けます。エンジンスイッチは ON にします。
5. エンジンを始動させます。

JMU29741

オイル残量警告が作動した場合

オイル残量が既定値以下になったときは、エンジン回転数が 2000 回転付近まで低下し、ブザーが鳴り、赤い警告灯が点灯します。このような場合は、リモートオイルタンクに残っている予備オイルをエマージェンシスイッチを使ってエンジンオイルタンクに送油することが出来ます。

JWM01050

⚠警　告

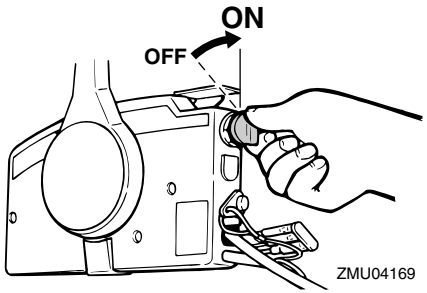
この操作をする前には、必ずエンジンを停止してください。

JCM00900

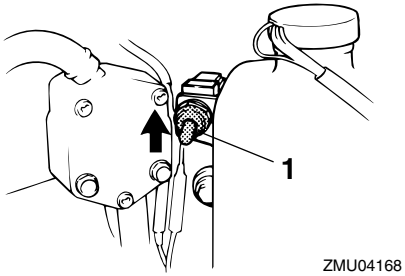
⚠注　意

- **エマージェンシスイッチを長時間使用し続けたときは、送油されすぎてエンジンオイルタンクからオイルが溢れ出します。エンジンオイルタンクにオイルが満たされたら、送油を止めてください。**
- **この操作は、オイル警告機構が作動したときに限り行なってください。**

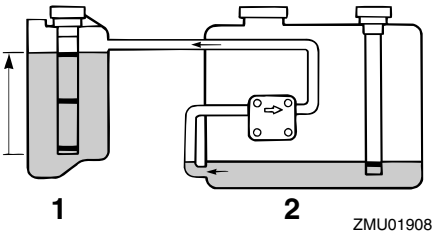
1. トップカウルを外します。
2. エンジンスイッチを“**ON**”にします。



3. エマージェンシスイッチを使ってエンジンオイルタンクに送油します。



1. エマージェンシスイッチ



1. エンジンオイルタンク
2. サブオイルタンク

4. エンジンスイッチを一度“**OFF**”にして、再び“**ON**”にします。これで警告機構がリセットされます。またこのときは、黄色の警告灯は点灯したままになります。
5. エンジンを始動させ、最寄りの港へ引き返し給油してください。

要　点

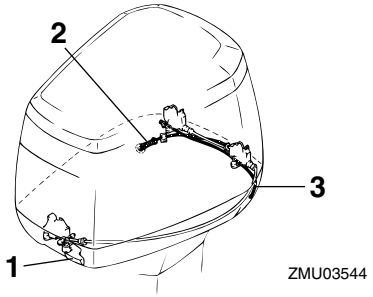
- リモートオイルタンクに残っている予備オイルの量は、最大で 1500cm^3 です。
- 船外機を 35° 以上チルトアップしているときは、送油ポンプは作動いたしません。チルトダウンしてから送油してください。

JMU29750

トップカウル取り外しレバーを使ってロックが解除できない場合

トップカウル取り外しレバーを引いてもロックが解除できない場合は、ケーブルの腐食や調整不良が考えられます。そのときは次のようにして取り外します。

1. トップカウル取り外しレバーを引いて前側のロックを解除します。



1. トップカウル取り外しレバー
2. 緊急ロック解除ケーブル（右舷）
3. 緊急ロック解除ケーブル（左舷）

2. パイロットホールの横から出ている緊急ロック解除ケーブルを引いて、後左舷側のロックを解除します。
3. トップカウルの左舷側を持ち上げその隙間から、緊急ロック解除ケーブルを外へ引き出します。
4. 緊急ロック解除ケーブルを引いて、後右舷側のロックを解除します。

JCM00390

⚠注　意

ロック機構に問題がある場合は、トップカウルを再取り付けする前に修理をしてください。

JMU29760

船外機を水中に落とした場合

エンジンを水没させた場合は、ただちに分解整備をしなければなりません。分解整備が遅れるとエンジン内各部に錆や腐食の発生を促す原因となりますから、ただちにヤマハ取扱店へ持参してください。
ただちに持参できない場合は、応急的に次の処置を施してください。

JMU29790

処置手順

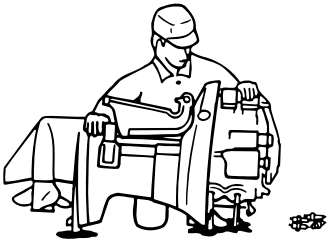
1. ただちにエンジンを水中から引き上げます。
2. 真水で洗い塩分、泥水、藻類を取り除き

ます。



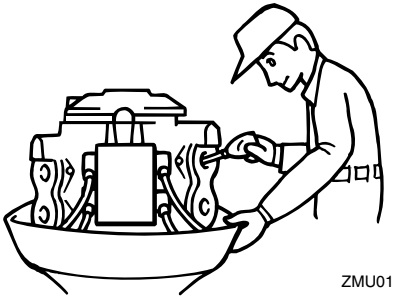
ZMU01909

3. スパークプラグを取り外し、プラグ孔からエンジン内部の水等を排出させます。



ZMU01910

4. ベーパセパレータ、燃料フィルタ、燃料ホース等から残っている燃料を排出させます。
5. インテークマニホルドやスパークプラグ孔からエンジンオイルを注入し、応急始動ロープでフライホイールロータを回転させオイルを行き渡らせます。



ZMU01911

6. できる限り早くヤマハ取扱店に分解整備を依頼してください。

JCM00400

⚠注　意

ヤマハ取扱店での分解整備を受けずに再使用しないでください。

JMU30131

お客様ご相談窓口のご案内

お買い上げいただきました商品についてのお問い合わせ・ご相談は「ご購入店」、下記ヤマハサービスセンター、またはサービス課にお問い合わせください。

ご購入店

ヤマハ発動機販売（株）サービスセンター一覧			平成 15 年 11 月 1 日現在
拠　　点	電話番号	郵便番号	住　　所
北海道サービス課	011-612-3120	063-0801	北海道札幌市西区二十四軒一条 7 － 3 － 13
東北サービス課	022-235-1031	983-0035	宮城県仙台市宮城野区日の出町 3 － 8 － 36
マリンサービスセンター東日本	045-775-1192	236-0007	神奈川県横浜市金沢区白帆 4 － 4
マリンサービスセンター中部	0533-76-4560	441-0314	愛知県宝飯郡御津町御幸浜 1 － 1 － 21　出光三河御津マリーナ内
西日本マリンサービス課関西グループ	078-806-7322	657-0841	兵庫県神戸市灘区灘南通 1-1-6
西日本マリンサービス課中四国グループ	082-234-5551	733-0036	広島県広島市西区観音新町 4-2874-86　観音マリーナ内
九州サービス課	092-885-6523	819-0001	福岡県福岡市西区小戸 2 － 11 － 1　西福岡マリーナ内

ヤマハ発動機（株）お客様相談室

〒438-8501　静岡県磐田市新貝2500

フリーダイヤル☎0120－090－819
携帯電話等、フリーダイヤルがご利用できない場合は、0538－32－1166をご利用下さい。

オープン時間　月曜～金曜（除く祝祭日）　9：00～12：00　13：00～17：00

JMU30141

不許複製
名称： 225F, 250B 船外機取扱説明書
部品番号： 65J-28199-00
発行： ヤマハ発動機株式会社 2004 年 4 月

YAMAHA
ヤマハ発動機株式会社
Printed in Japan
April 2004–0.1 × 1

再生紙を使用しています。